

野菜の消費行動に関する調査結果

平成20年6月

社団法人 JA総合研究所

はじめに

近年、健康への関心が強まる中で、「野菜を多く食べなければならない」との観念は幅広い年代に浸透しており、「野菜たっぷり〇〇」など野菜を多く使用していることをアピールする商品も支持を集めている。しかし、一方で、野菜類の平均摂取量（国民健康・栄養調査。厚生労働省）は、21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）で掲げる2010年目標“成人1日当たり350g以上”を20～15%程度下回る水準で推移している。

「消費者の野菜を食べなければならない」という意識を実際の購買行動につなげるにはどうしたらよいか？

J A総合研究所では、野菜のマーケティング戦略の検討に必要なデータとして資するべく、野菜の摂取量の自覚・消費購買行動等「野菜の消費行動に関する調査」を、Food Japan Network 事務局と共同で実施した。本調査報告書が、野菜の生産者をはじめ流通・販売にかかわる多くの方々にとって販売戦略の構築の参考になれば幸いである。

平成20年6月

社団法人 J A総合研究所

Food Japan Network では会員サービスとして、本調査の調査データを提供(有償)する予定です。お問い合わせは、TEL 03-3505-6796 服部、溝江まで。

調査の概要

■ 調査方法	インターネットリサーチ			
■ 調査地域	全 国			
■ 調査主体	社団法人 J A総合研究所、Food Japan Network 事務局			
■ 実施機関	株式会社 インテージ・インタラクティブ			
■ 調査日時	2008年4月18日(金)～4月23日(水)			
■ 有効回答者数	Yahoo!リサーチ モニター会員 n=1,294			
	合 計	主 婦	男性単身者	女性単身者
	20代以下 130(10.0)	52 (5.5)	44 (27.0)	34 (17.8)
	30代 235(18.2)	185 (19.7)	25 (15.3)	25 (13.1)
	40代 369(28.5)	313 (33.3)	23 (14.1)	33 (17.3)
	50代 302(23.3)	241 (25.6)	25 (15.3)	36 (18.8)
	60代 161(12.4)	101 (10.7)	24 (14.7)	36 (18.8)
	70代以上 97(7.5)	48 (5.1)	22 (13.5)	27 (14.1)
	合 計 1,294(100)	940(100)	163 (100)	191 (100)

エリア区分：北海道

東 北 (青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)

北関東 (茨城、栃木、群馬)

京 浜 (埼玉、千葉、東京、神奈川)

甲信越・北陸 (新潟、富山、石川、福井、山梨、長野)

東 海 (岐阜、静岡、愛知、三重)

京阪神 (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)

中国・四国 (鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知)

九 州 (福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)

調査結果の概要

1 生鮮野菜や野菜加工品等の購入／利用状況は？ P6参照

生鮮野菜は96%が購入。半加工野菜<冷凍野菜<調理済加工品<中食<外食の順で利用頻度は高まる。

2 生鮮野菜をどこで購入しているか？ 9

主に購入するところは、①スーパーマーケット 76% ②生協 7% ③農産物直売所・JA直売所 7% ④青果専門店・八百屋 6% の順。食材宅配・ネット通販等は少数派。エリア別には、東北では生協 14%、北関東・中四国では農産物直売所・JA直売所 14%、京浜では青果専門店 12% の利用割合が高い。直売所のシェア拡大の可能性が大きい。

3 生鮮野菜の購入頻度は？ 1回あたりの購入金額は？ 11

既婚女性は、「週に2~3回」が6割、「週に4~5回」「ほぼ毎日」の人も1/4。1回当たりの購入金額は、700円未満が半数、700~1,100円未満が1/3。

単身者では、「週に1回未満」「週に1回」が男性で半数、女性で4割。1回当たりの購入金額は、700円未満が7割。

4 生鮮野菜の週当たりの購入金額は？ 12

既婚女性は平均で週2,219円。単身男性 1,169円、単身女性 1,360円。

野菜不足になっていない人(既婚女性)の平均は週2,448円。野菜不足を感じている人(既婚女性)では週2,036円。

野菜不足になっていない人の家族1人当たりの野菜購入金額は週700円程度(1日当たり100円/家族1人)。野菜不足を感じている人は家族1人当たり週555円。145円の差が野菜不足感に。

5 生鮮野菜の一度に購入する量の目安は？ 14

根菜類・いも類は「約1週間分の量」、葉菜類は「1日で使いきる量」「2~3日で使いきる量」、果菜類は「2~3日で使いきる量」「4~5日で使いきる量」が主流。余らせたくない人が多く、販売単位の見極めが重要。

6 生鮮野菜の購入時に重視する点は？ 15

全体では、①鮮度 83% ②国産品 68% ③単価が安い 58% ④旬 50% ⑤ちょうど良い量 43% の順。年代の低い層は価格・保存性重視、年代の高い層は野

菜そのものを評価する項目重視。

7 購入時に国産／輸入を確認するか？..... 17

生産国・原料原産国を確認する人は、生鮮野菜では98%、ほぼ全員が生産国を確認。冷凍野菜では91%、半加工品では85%。

8 生鮮野菜の国産志向は？ 輸入野菜を買う場面は？..... 18

「国産しか買わない」は3割強（32%）、「なるべく国産を買う」は5割強（51%）と、国産志向が8割超となっている。「気分で両方買うことがある」人は8%、値段を優先する人が5%、色形・食味を優先する人は2%。

「なるべく国産」「気分で両方」の人が輸入品を買うのは、「輸入国が安心できるとき」が5割、「国産品が極端に高いとき」が4割。

9 生鮮野菜の購入時に確認する情報／知りたい情報は？..... 20

確認する情報では、「生産国(国産か輸入か)」が98%と最も多く、次いで「国内の生産地(都道府県、市町村)」56%、「遺伝子組換えかどうか」43%の順。

「おおよその消費期限」について知りたい人は4割超、「収穫日・出荷日」は6割近い。「鮮度を保証する指標」としてこれらの情報の提供を求めているものと考えられる。

10 購入時に確認する情報の情報源は？..... 22

「店頭表示・包装袋等の表示」は97%、ほとんどの人が情報源としている。「ネット通販の商品説明やカタログ注文書の説明」「包装袋等に記載してあるQRコード等」「お店の人に聞いている」「生産者や産地のホームページ等」は2割前後。

11 原料原産地表示が無い調理済加工食品・中食・外食のイメージは？..... 23

原料原産地の表示が無い商品やメニューに対して、「特に気にならない」とする人は1割未満。4割～5割強が「原材料が国産か輸入品かが気になる／不安だ」と回答。特に、調理済加工食品では半数強が不安を感じている。

多くの消費者が、外食・中食・調理済加工食品においても、原料原産地に関する情報を求めている。

12「野菜そのものの摂取量」の自覚..... 234

野菜ジュースやサプリメントを除いた”野菜そのもの”の摂取量の自覚は、全体では、「まあ摂れている」が最多で4割弱(36%)。「まあ摂れている」～「十分摂れている」とした人は半数強(合計で53%)が、「あまり摂れていない」～「まったく摂れていない」人(同3割)を上回る。

13「野菜そのものの不足」に対する現行の対処方法.....26

”野菜そのものの不足”に対して実行している対処方法は、「家庭で、野菜料理や使用する野菜の量を増やす」が1位で64%、2位は「野菜ジュースを飲む」41%、次いで「果物を多く食べる」「サプリメントを摂る」各22%の順。野菜そのものの摂取量が少ないと自覚しているほど、「野菜ジュース」「サプリメント」「青汁」を飲んでいる割合が高く、野菜そのものの不足を何とか補おうと努めている姿がうかがえる。

14 野菜ジュース等のイメージ28

野菜不足を補完する野菜ジュース・青汁・サプリメント・果物のイメージは？

野菜ジュースは、価格面・味の評価が高いが、原料原産地・添加物・糖分が気になる。青汁は、味のイメージがネック。サプリメントは、機能面・利便性への評価が高い。果物はおいしいけれども、糖分が気になる。

15 野菜不足とは思わない人.....30

”野菜そのもの”の摂取に加えて、野菜ジュース・サプリメント等を摂った結果、「野菜不足にはなっていないと思う」人は、全体で4割。既婚女性43% > 単身女性32% > 単身男性15%。

60代・70代の女性では6～7割が不足していないと思っているが、実際の摂取量と自覚にズレが生じている可能性大。摂取量の基準の”見える化”が課題。

16 野菜不足になっている理由32

全体の6割は野菜不足を感じている。野菜不足になっている理由は ①野菜の価格が高くで買いづらい、②調理の時間がない、③調理が面倒、④食事が不規則、⑤調理方法がわからない の順。②～⑤は、野菜の摂取量が少ないと自覚しているほど割合が高い。

17「野菜そのものの不足」に対する今後の対処方法.....35

野菜が不足している人の今後の対処方法は、「家庭で、野菜料理や使用する野菜の量を増やす」が71%、「野菜ジュースを飲む」44%、「サプリメントを摂る」23%、「中食（お弁当）や外食時には、野菜サラダ等の1品を加える」19%の順。野菜そのものの摂取量を増やして行きたい人が多くなっている。

18 新しい食べ方や下ごしらえ、料理方法の情報源は？37

参考とする情報源は、①料理本／レシピ本 ②テレビ ③インターネットの生活情報／料理関連サイト ④友人 ⑤家族 の順。

調査結果のまとめ

1. 野菜不足の解消ニーズ

健康志向が高まる中で、野菜の重要性は広く認識されており、今回の調査でも、野菜不足を感じている人(全体の6割)の94%は、野菜不足の解消のため何らかの対処をしたいと回答している。

野菜不足を感じている人のうち7割が「今後、家庭で野菜料理や使用する野菜の量を増やしたい」としており、「現行、家庭で野菜料理や使用する野菜の量を増やす」よう努めている人を16ポイント上回っている。同様に「中食(お弁当)や外食時には、野菜サラダ等の1品を加える」は約2割で現行を5ポイント上回っており、野菜を増やして行きたいニーズが表れている。

既婚女性について見ると、「野菜不足にはなっていないと思う」人の1週間の野菜購入金額は平均2,448円(家族1人当たり700円)。野菜不足を感じている人2,036円(同555円)と週当たり約400円(同145円)の差がある。この差を野菜不足の解消ニーズの需要量と見ることもできる。

「家庭の野菜料理や野菜の使用量を増やしたい」ニーズをつかむには、野菜不足の主な理由である「野菜が高くて買いづらい」「時間が無い」「調理が面倒」「調理方法がわからない」を解消する提案を行っていく必要がある。

2. 「新鮮さ」「低価格」「安全性」がキーワード

野菜を購入する際に重視する点・知りたい情報でこれらのキーワードに関係する項目が上位にランクされている。消費者は、おかれた状況によって、これらのキーワードに軽重・順番をつけて商品を提供する店や購入するアイテムを選択している。

その表れのひとつに国産志向の高まりがある。消費者の意識は「新鮮さ」の面では国産>輸入、「低価格」の面では国産<輸入、「安全性」の面では国産>輸入の関係にある。中国製冷凍ぎょうざ事件を契機に「輸入品は安全面でのリスクが高い」との認識が高まったと言われている。その結果、加工用・業務用の需要も含めて「低価格」を重視していた層の需要が国産にシフトした。

もうひとつが農産物直売所・JA直売所人気。当研究所が本年2月に実施した調査においても直売所の実績は大きく伸長しており、今回の調査でもエリアによっては1割を超えるシェア(購入者割合)を確保している。直売所の地産地消のコンセプトが「新鮮さ」「低価格」「安全性」にマッチした形で支持を集めている。

3. 情報提供への要求

生鮮野菜を購入する際に、98%の人が「国産」「輸入」を確認し、その結果、8割を超える人が「国産」（「なるべく国産を買う」を含む）を購入している。産地表示が、購入時の判断材料として、重要な役割を果たしている。また、購入時に最も重視する「鮮度が良い」ことに対しても、「収穫日・出荷日」「およその消費期限」として情報提供を求めており、「表示」の重要性が増している。

調理済加工食品・中食・外食についても同様に、原料原産地の表示が無い商品やメニューに対して、4割～5割強の人が「原材料が国産か輸入品かが気になる／不安だ」と回答しており、「特に気にならない」とする人は外食をよく利用する人でも1割程度である。

多くの消費者が、調理済加工食品・中食・外食においても、原料原産地に関する情報を求めている。

1 生鮮野菜や野菜加工品等の購入／利用状況は？

野菜は、肉食の素材としての生鮮野菜・洗浄カットした半加工品、持ち帰り用の中食、食事の場所を提供する外食等、様々な加工を加えた商品／サービスとして消費されている。生鮮野菜、半加工品(カット野菜単品、カット野菜ミックス品)、冷凍野菜、調理済加工品(レトルト品・冷凍パック品など)、中食(惣菜コーナー・弁当店の調理品)、外食について、商品／サービスの購入／利用状況を聞いた。

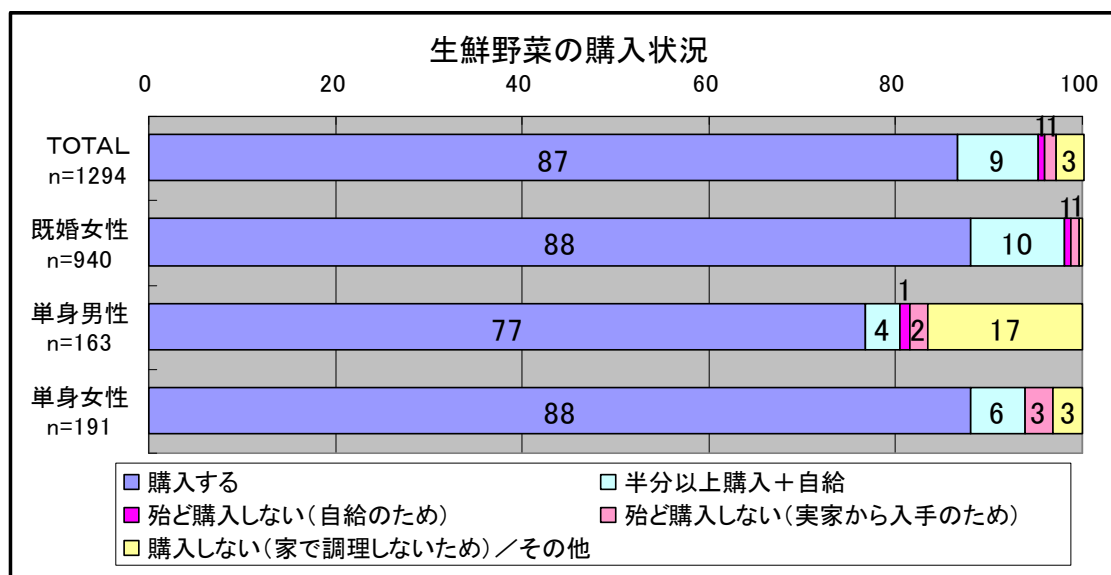
【生鮮野菜】

■ 生鮮野菜を購入している割合は、「購入している」「自給(含む家庭菜園等)もあるが、通常食べる量の半分以上は購入している」を合わせて96%となっており、ほとんどの人が購入している。

■ 野菜を「実家・親戚などから分けてもらっており、殆ど購入しない」は1%で、“米”では「実家・親戚から無償で入手している」が16%*であったことと比べると極めて少数である。

米は保存が利くことから一年分を一度に送ることもできるが、野菜は頻繁に送る必要があり、送料が高くつくことが要因と考えられる。

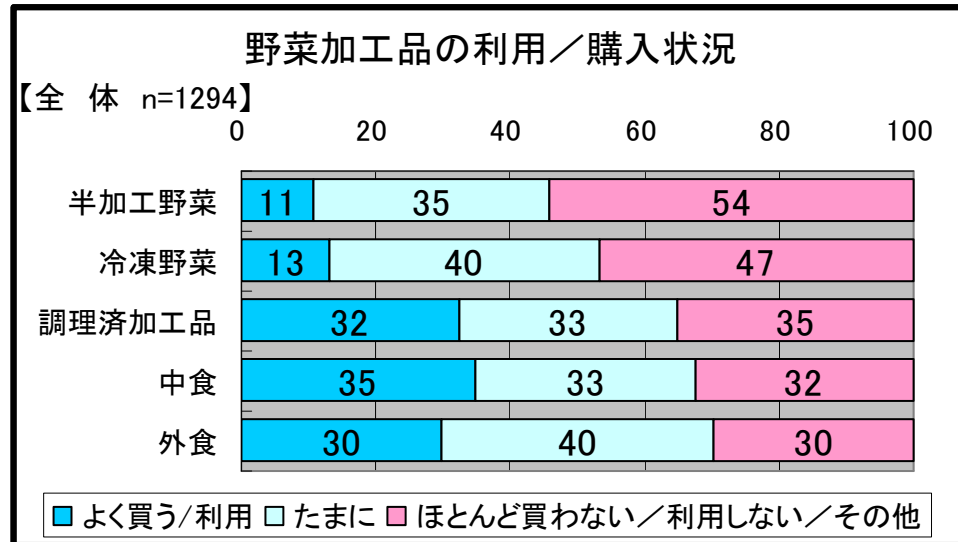
※平成20年1月「米の消費行動に関する調査」 当研究所



注) グラフは表示単位未満(小数点第1位)を四捨五入しているため、計と内訳の積み上げが一致しないものがある。(以下、各図同じ)

【野菜加工品等】

■ 野菜の加工品について購入・利用状況を見ると、利便性が高くなるほど、購入・利用する人の割合が増加する傾向が見られる。



注) 調理済加工品・中食・外食については設問の選択肢をつぎのとおりグループ化した。

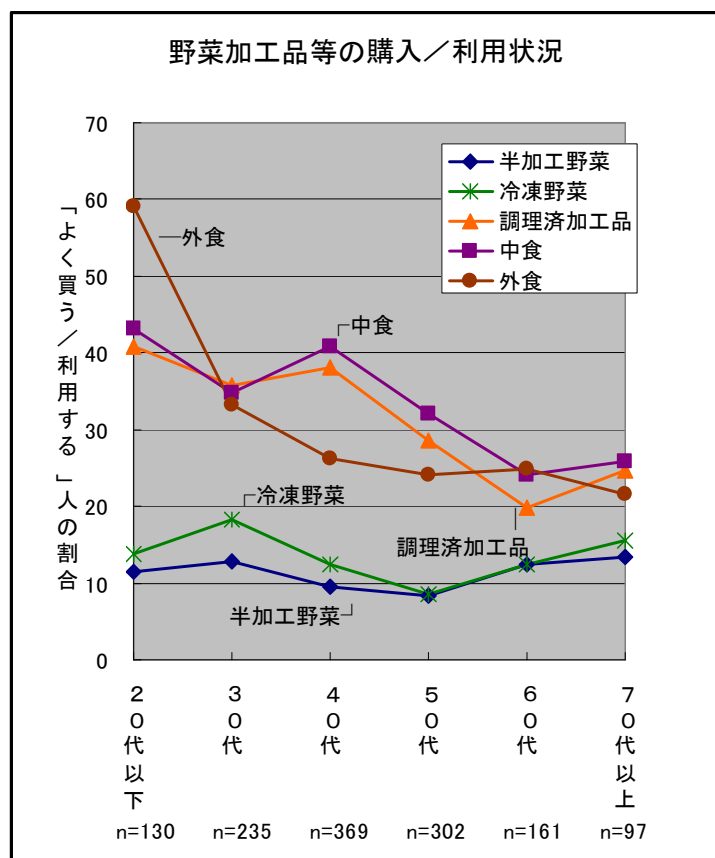
よく買う／利用 = 「ほぼ毎日1回は利用する」「2日に1回は利用する」「3日に1回は利用する」「4～5日に1回は利用する」「週に1回は利用する」

たまに買う／利用 = 「月に2～3回は利用する」

ほとんど買わない／利用しない／その他 = 「ほとんど利用しない」「その他」

「よく買う／利用する」人を年代別に見ると、

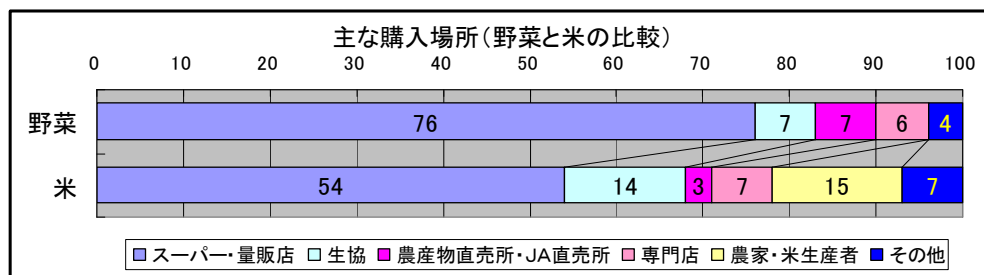
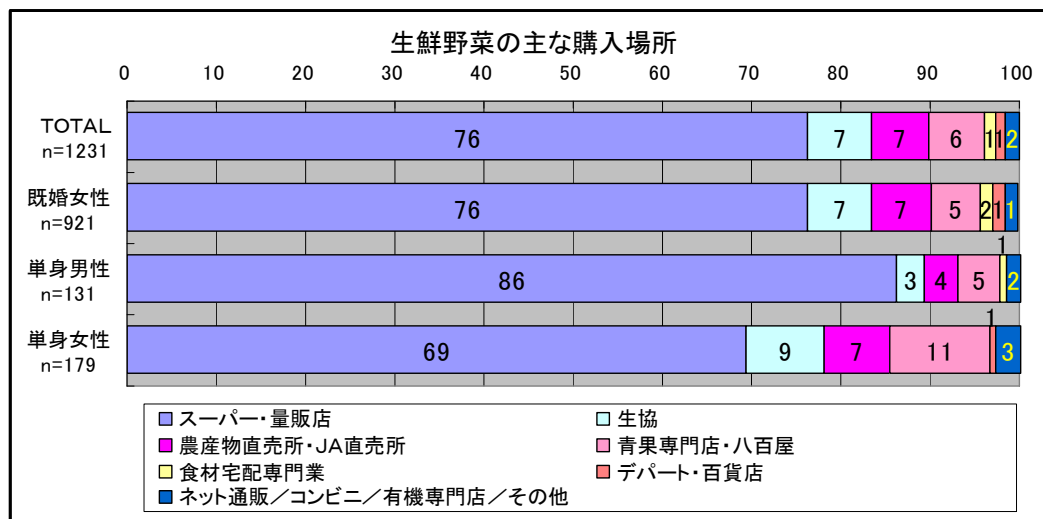
- 半加工野菜・冷凍野菜は年代別に大きな傾向は認められない。調理済加工品・中食・外食は年代が上がるに従って、購入／利用する割合は少なくなる傾向が認められる。
- ・20代以下は、外食の利用割合が高く、6割近い人が週に1回以上利用している。調理済加工品・中食を「よく買う／利用する」割合も各年代層の中で一番高くなっている。
- ・30代では、他の年代に比べて冷凍野菜を利用する人の割合がやや高い。
- ・40代では、中食・調理済加工品を「よく買う／利用する」人が20代以下に次いで高くなっている。
- ・50代では、半加工野菜・冷凍野菜を「よく買う／利用する」割合が他の年代に比べてやや低い。



2 生鮮野菜をどこで購入しているか？

普段、野菜を購入している人は全体の96%であった。それでは、主にどこで購入しているのか？ 普段買い物をする場所を聞いた。

- 全体では、①スーパーマーケット 76%、②生協 7%、③農産物直売所・JA 直売所 7%、④青果専門店・八百屋 6%の順となっている。食材宅配・ネット通販等は1~2%程度で少数派。
- 単身男性では、「スーパーマーケット」の割合が、単身女性では「青果専門店・八百屋」「生協」の割合が高くなっている。
- 米の購入先（「米の消費行動に関する調査」H20.1 当研究所）と比較すると、生鮮野菜ではスーパーマーケットの割合が20ポイント以上多くなっている。また、生協の割合は半減、直売所は倍増している。米では2番目であった「農家・生産者から直接有償」は、ほとんどいない。



主な購入先をエリア別に見ると、エリアごとにつぎの特徴が認められる。

(北海道) 他の地域に比べて、総じて「スーパーマーケット」の割合が高い。

(東北) 「生協」の割合が高い。

(北関東) 「直売所」が高い

(京浜) 「専門店」が高く、「スーパーマーケット」が低い。

(甲信越・北陸) 総じて「スーパーマーケット」が低くなっている。

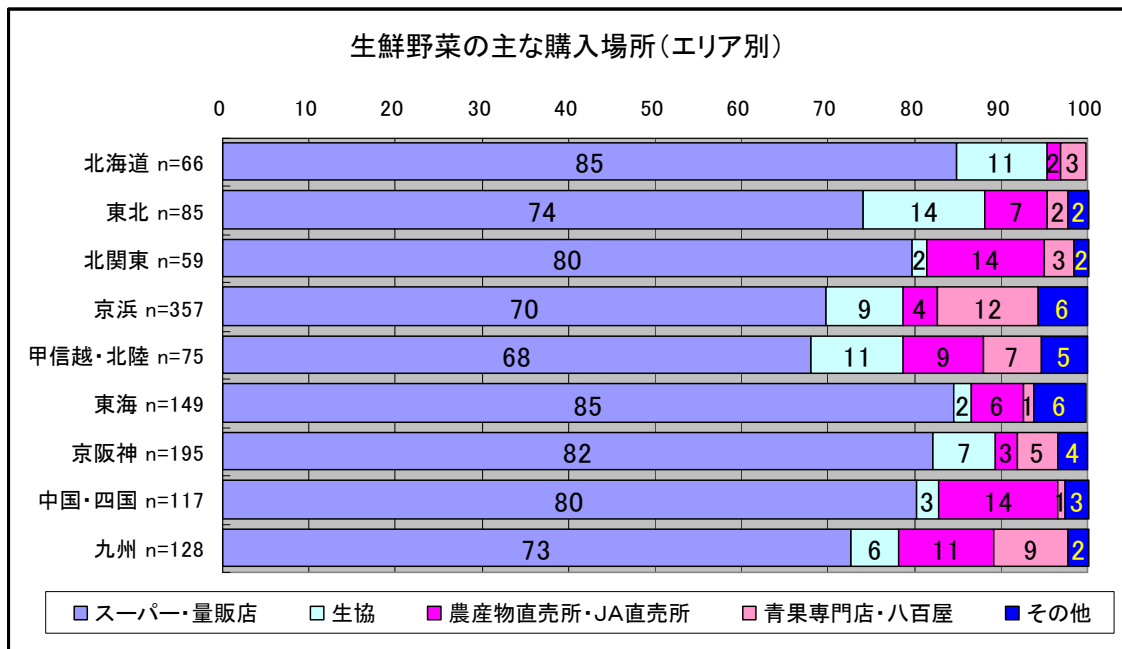
(東海) 「スーパーマーケット」が高く、「生協」「専門店」が低い。

(京阪神) 「直売所」が低い。

(中四国) 「直売所」が高く、「専門店」が低い。

(九州) 「直売所」「専門店」が若干高い。

■ 北関東・中国四国・九州エリアでは農産物直売所・JA直売所の購入者シェアが1割を超え、スーパーマーケットに続く購入先となっている。生鮮野菜の購入時に重視する点では①鮮度 ②国産品 ③単価が安い ④旬であることが上位にランクしている(詳細別項)。直売所のコンセプトである“地産地消”は、これらの消費者が重視する点にマッチしており、他のエリアにおいてもシェア拡大の可能性は大きい。



3 生鮮野菜の購入頻度は？ 1回あたりの購入金額は？

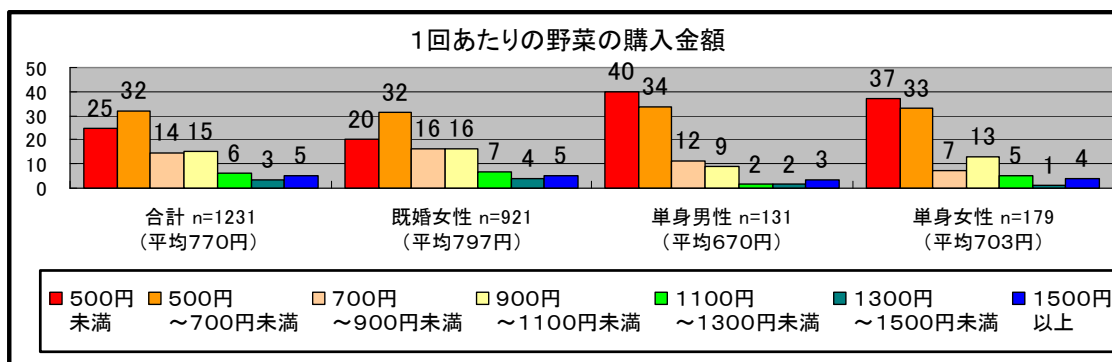
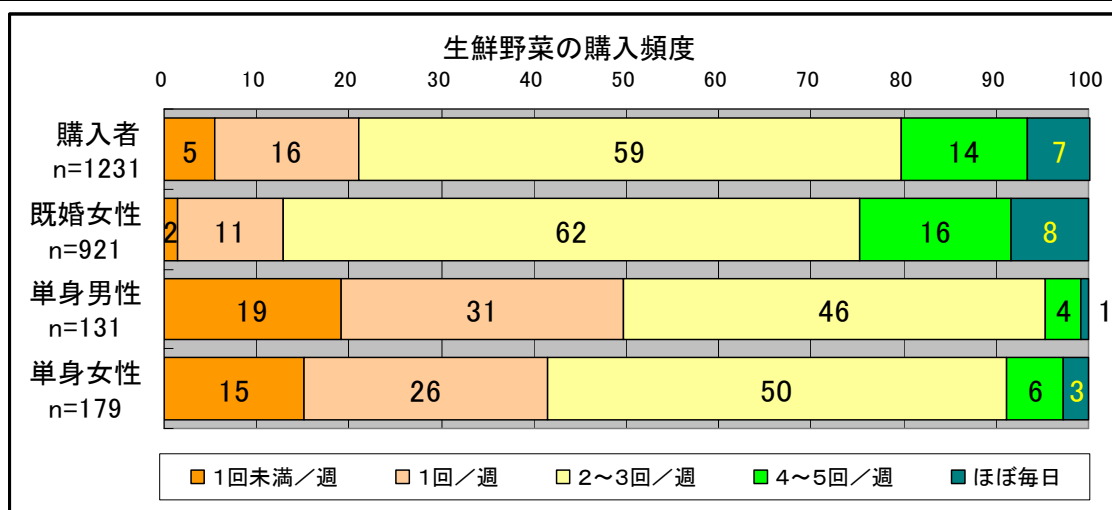
普段、野菜を購入している人は、週に何回、一度にいくら位野菜を購入するのか？ 購入頻度と1回当たりの購入金額を聞いた。

【購入頻度】

- 既婚女性・単身者とも、「週に2～3回」が最多で6割～半数を占めている。
- 既婚女性では、ほぼ全員が週に1回以上野菜を購入しており、1/4の人が「4～5回」「ほぼ毎日」と回答している。
- 単身者では、「週に1回未満」「週に1回」の割合が多く、男性では半数、女性で4割を占めている。

【購入金額】

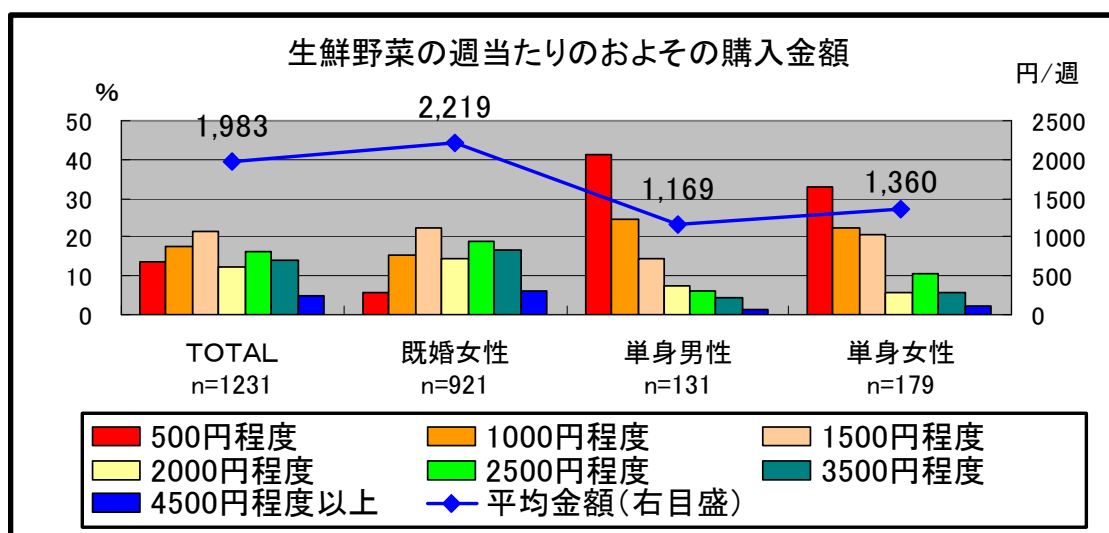
- 既婚女性は、「500円～700円未満」が約1/3で、次いで「500円未満」が2割
- 単身者は、男女とも「500円未満」が一番多く、700円未満が7割を占める



4 生鮮野菜の週当たりの購入金額は？

週当たりの購入頻度に一回の購入金額を乗じて、週当たりのおよその購入金額を計算した。

- 既婚女性は、1000円程度から3500円程度までほぼ平坦な分布となっており、平均金額で2,219円となっている。
- 単身者では、男女とも500円程度をピークに右肩下がりの分布となっており、平均金額は、単身男性 1,169円・単身女性 1,360円となっている。単身女性では単身男性に比べて1500円程度の割合が多く、平均金額でも200円程度高くなっている。



注) 計算式

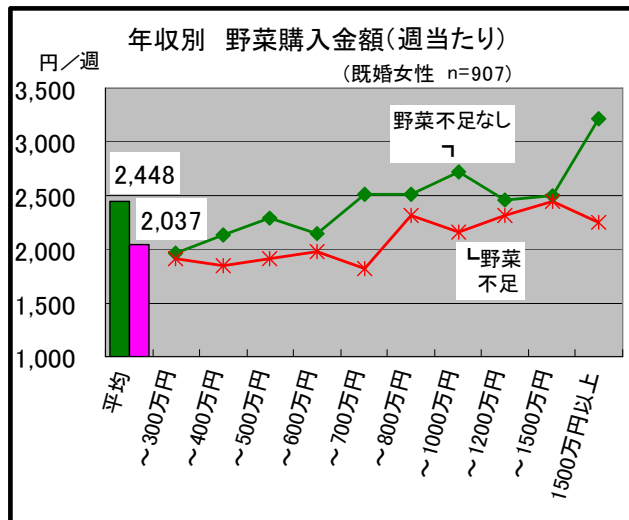
(週当たりの購入金額) = (週当たりの購入回数) × (一回当たりの購入金額)

週当たり購入回数は、「1回未満」=0.5、「1回」=1、「2~3回」=2.5、「4~5回」=4.5、「ほぼ毎日」=6.5 とした。

一回当たり購入金額は、「500円~700円未満」~「1300円~1500円未満」は上下の境界値の中心値「600円」~「1400円」とした。ただし、「500円未満」=400円、「1500円以上」=1500円

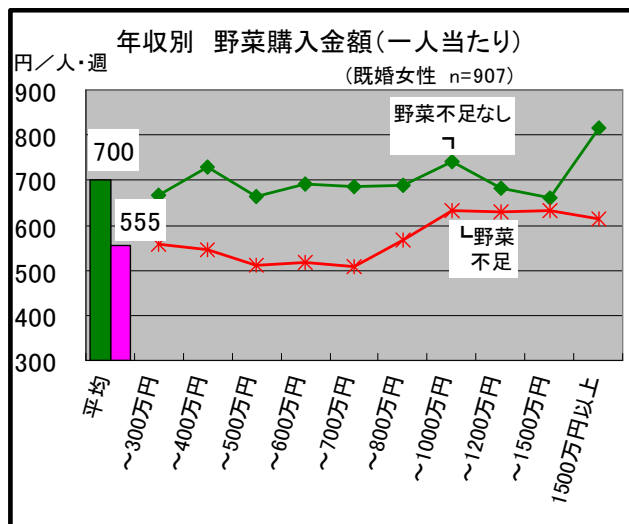
既婚女性について年収別*に、「野菜不足にはなっていないと思う**（以下 野菜不足なし n=388）」と「野菜不足を感じている人（以下 野菜不足 n=519）」の週当たりの野菜購入金額を比較すると、

- 週当たりの購入金額は平均で「野菜不足なし」 2,448円 「野菜不足」2,037円で、約400円の差となっている。



- 家族1人当たりの購入金額は、「野菜不足なし」では平均で700円、年収に関わらずほぼ同じ水準で推移している。野菜不足を感じない野菜の購入金額は、週700円程度(1日100円/人程度)と推計することができる。

一方、「野菜不足」では年収が高くなるほど購入金額は上昇するものの、平均で家族1人当たり週555円(1日80円/人程度)となっており、「野菜不足なし」との差である週145円(1日20円/人程度)が野菜不足感がとなって表れている。



※ サンプル数が少ない200万円未満を除く
 ※※ 詳細は「15 野菜不足とは思わない人」参照

5 生鮮野菜の一度に購入する量の目安は？

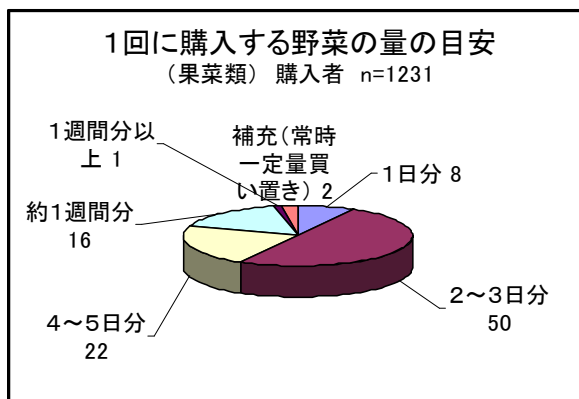
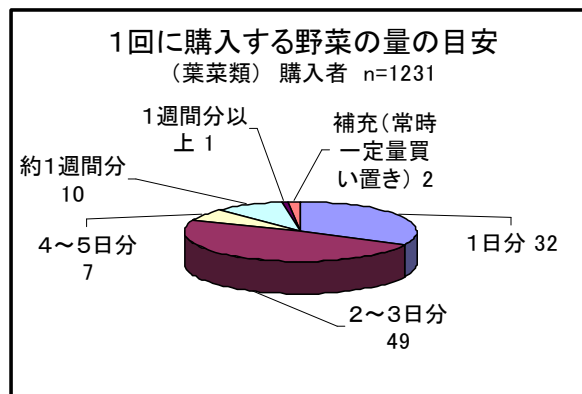
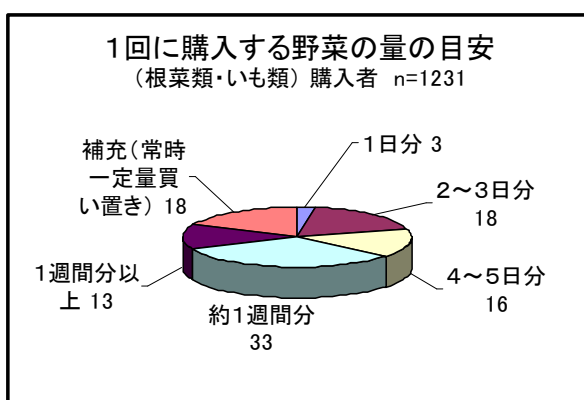
「野菜を週に2～3回、一度に500～700円程度購入」というのが買い物の平均像である。それでは、1回に買う野菜はどの程度で使い切るのか？ 1回に購入する野菜の量の目安を聞いた。

(大根・人参等の根菜類・いも類)…「約1週間分の量」が最多で約1/3

(ほうれん草・春菊等の葉菜類)…「2～3日で使いきる量」が約半数、「1日で使いきる量」が約1/3で、合わせて約8割

(なす・きゅうり・トマト等の果菜類)…「2～3日で使いきる量」が半数、「4～5日で使いきる量」が2割強で、葉菜類よりやや長めとなっている。

■ 野菜の購入時に「ちょうど良い量」を重視する人は約4割、「保存の仕方」を知りたいとする人も4割近い(詳細は6項・10項を参照)。同じものばかり食べたくない・余らせたくないと思う人が多いことを表しており、販売単位の見極めが重要である。

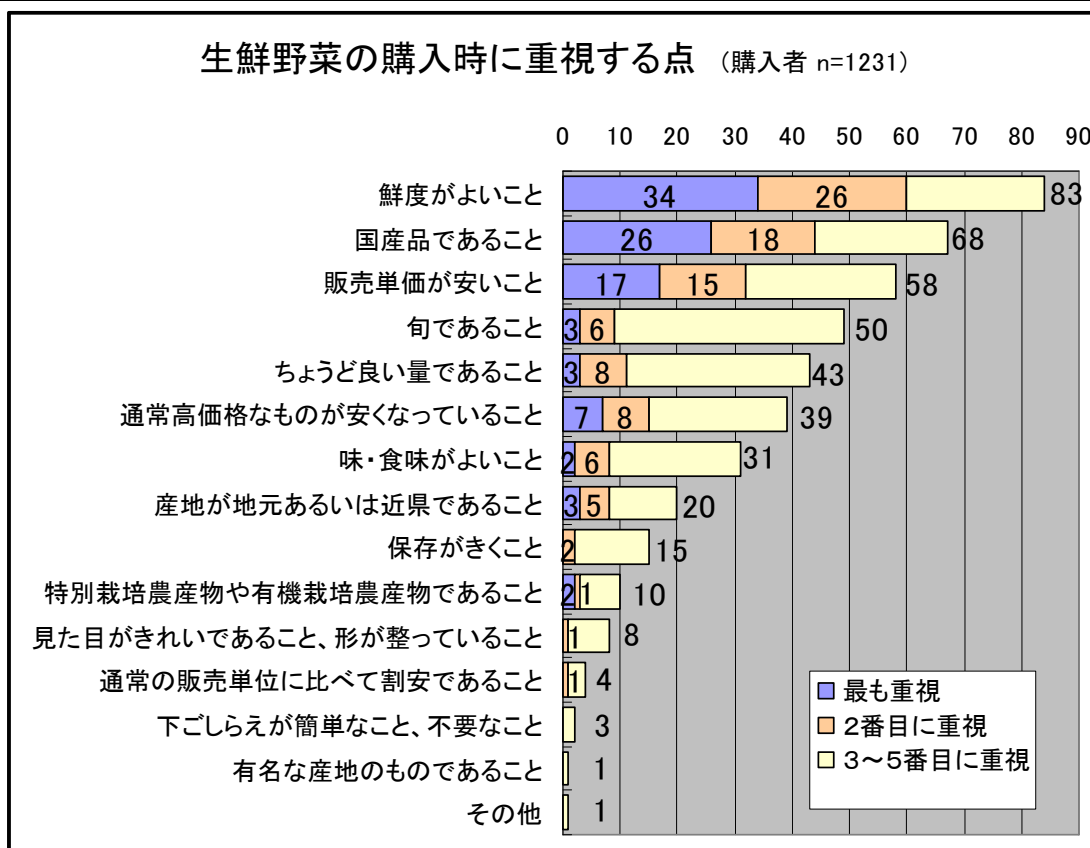


6 生鮮野菜の購入時に重視する点は？

生鮮野菜を購入する際に重視している点は何か？ 重視している点を選択肢の中から5つまであげてもらった。

- 全体では、
 - ①鮮度がよいこと 83% ②国産品であること 68% ③販売単価が安いこと 58%
 - ④旬であること 50% ⑤ちょうど良い量であること 43% の順となっている。
- 「国産品であること」は約7割の人が重視しているが、国内の生産地に関して見ると、「地元あるいは近県である」ことが2割、「有名な産地のものであること」は1%と極めて少数である。米では34%が「産地(都道府県など)」・15%が「米どころである」にこだわっている*ことに比べると産地を重視する人は少なくなっている。米の売り場に比べて野菜の種類ごとに陳列されている産地数が少ないことも理由として考えられるが、意外に、どこが有名な産地なのかが知られていない可能性もある。

※「米の消費行動に関する調査」H20.1 当研究所

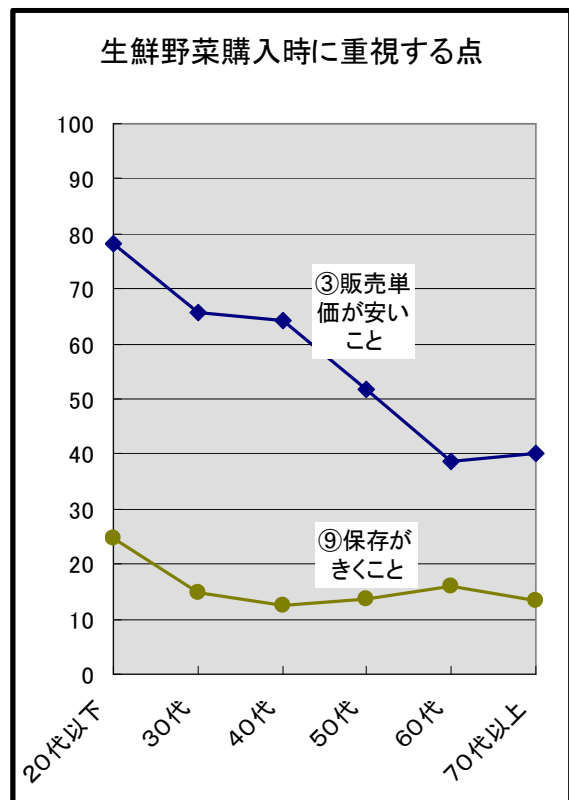
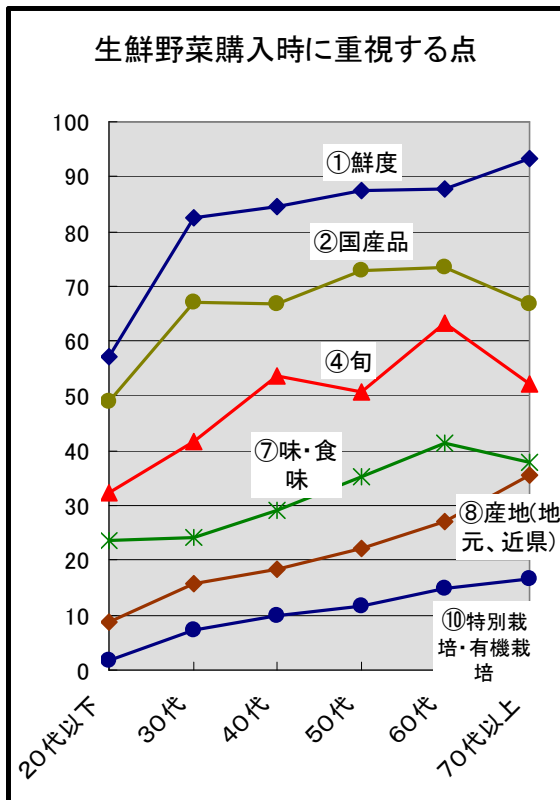


重視している点を年代別に見ると、

■ 年代が高くなるほど、「鮮度」「旬」「味・食味」といった野菜そのものを評価する項目や、それを裏付ける産地、栽培方法を重視する割合が多くなる傾向が認められる。

一方で、「販売単価が安いこと」「保存がきくこと」は年代が低いほど重視する人の割合が高くなっている。

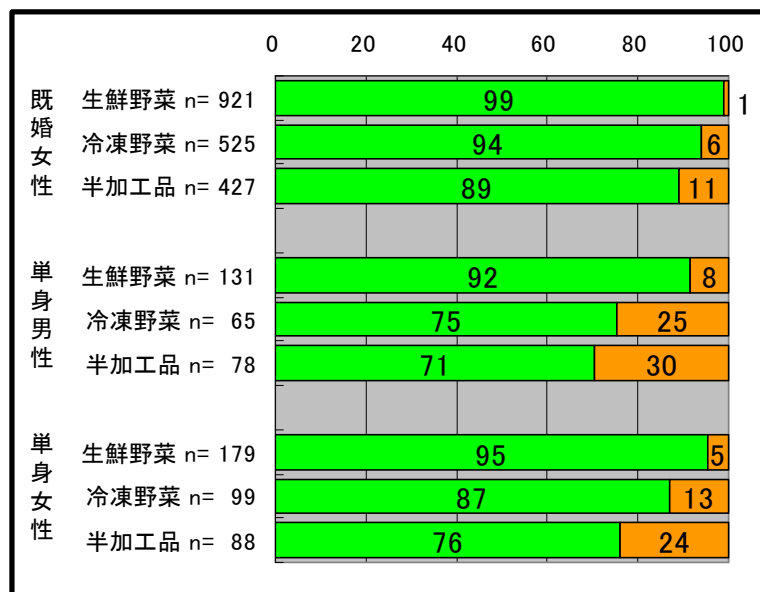
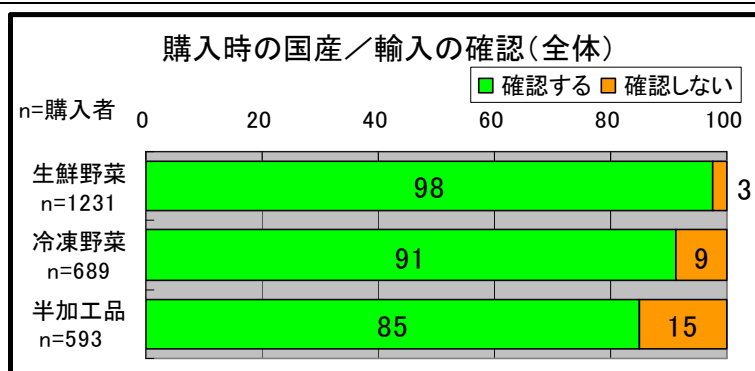
全体5位の「ちょうど良い量であること」、6位の「通常高価格なものが安くなっていること」には年代別の傾向は特に認められなかった。



7 購入時に国産／輸入を確認するか？

中国産冷凍ぎょうざ事件を契機に、輸入品は安全性に関わるリスクが大きいとの意識が強まっていると言われている。生鮮野菜・冷凍野菜・半加工野菜(カット野菜セット等)を購入する際に、生産国はどの程度確認されているのか？「国産品」「輸入品」の確認をするか、を聞いた。

- 既婚女性・単身者とも、「確認する」が多数派を占めるが、「確認しない」は単身者でその割合が高くなっている。
- 種類別では生鮮野菜<冷凍野菜<半加工野菜の順で、「確認しない」割合が高くなっており、加工度が高いほど国産であることより利便性を優先させる人が多くなることを表している。

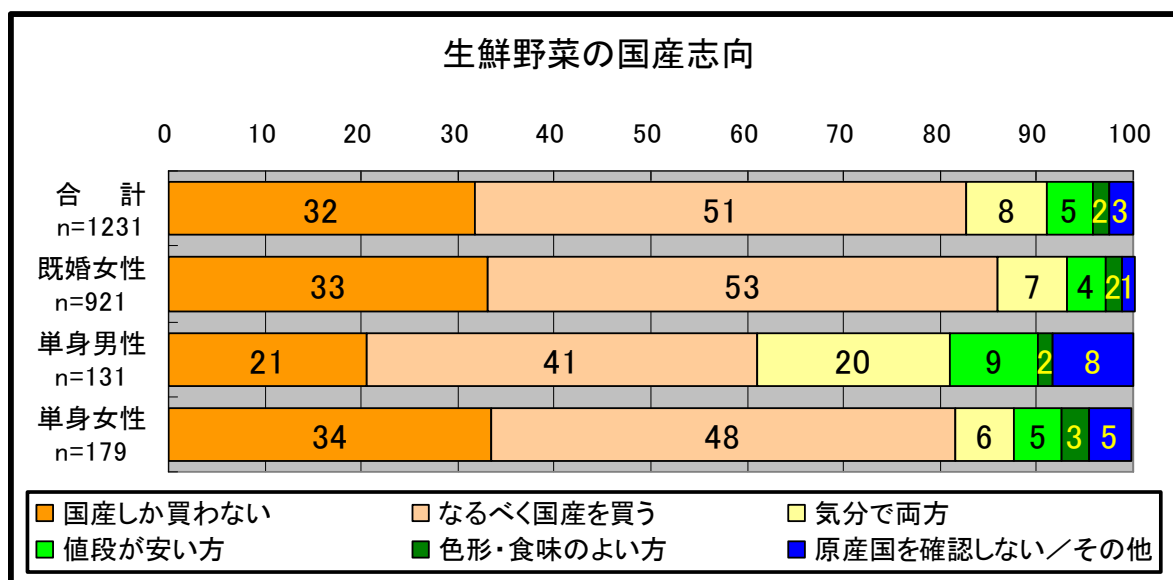


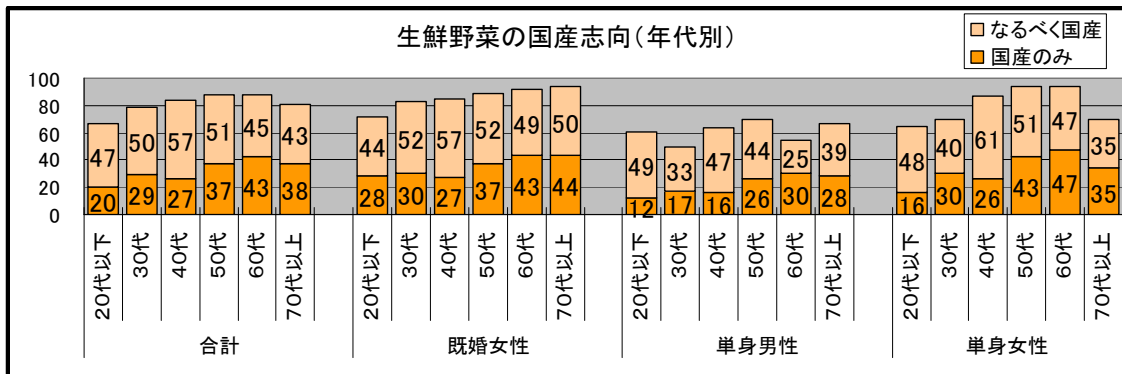
注) 冷凍野菜・半加工品の母数は「よく買う」「たまに買う」人

8 生鮮野菜の国産志向は？ 輸入野菜を買う場面は？

生鮮野菜の生産国については、ほぼ全員（98%）が確認している。それでは、確認した上で「国産」「輸入」どちらを選ぶのか？ 国産を優先させる度合いや他に何を優先させているのか、を聞いた。

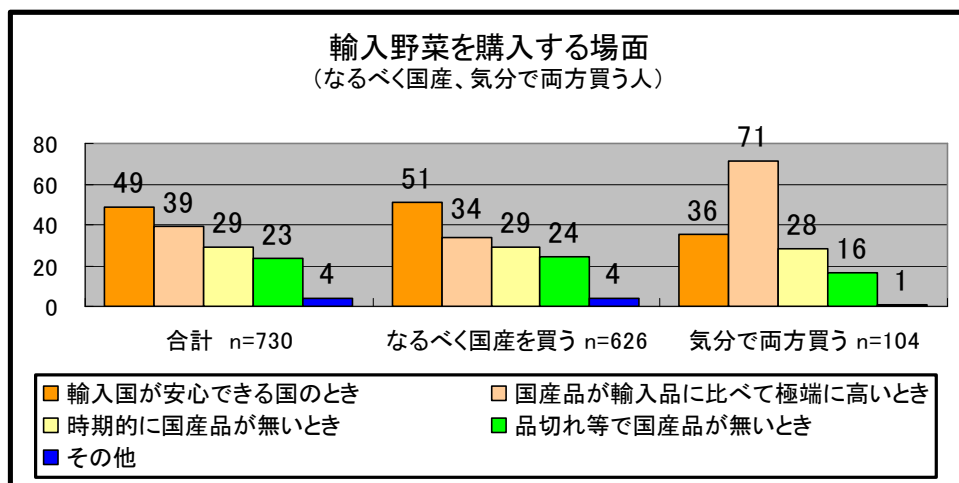
- 生産国を確認した上で、「国産しか買わない」は3割強（32%）、「なるべく国産を買う」は5割強（51%）と、国産志向が8割超となっている。「気分で両方買うことがある」人は8%、値段を優先する人が5%、色形・食味を優先する人は2%。
- 単身男性の国産志向は6割強（62%）で、既婚女性・単身女性に比べて少なくなっている。「気分で両方」は2割、「値段の安い方」は約1割。
- 既婚女性では、年代が高くなるほど国産志向の人が多くなる傾向が見られる。単身男性では、年代別の傾向は表れていない。単身女性では、既婚女性とほぼ同様の傾向が見られるが、70代以上でやや低下している。





生鮮野菜の生産国を確認した上で「なるべく国産を買うようにしている」「気分で両方買うことがある」人はそれぞれ51%、8%であった。これらの人が輸入野菜を買うのはどういう時か？ 輸入野菜を購入する場面を聞いた。

- なるべく国産を買うようにしている人でも、5割強が「輸入国が安心できる国のとき」買っていると回答しており、輸入国を見て判断していることが分かる。次いで「国産品が輸入品に比べて極端に高いとき」「時期的に国産品が無いとき」「品切れ等で国産品が無いとき」の順となっている。
- 気分で両方買うことがある人では「国産品が輸入品に比べて極端に高いとき」が7割超となっており、「なるべく国産を買う」人に比べて、価格で判断している割合が高い。



9 生鮮野菜の購入時に確認する情報／知りたい情報は？

プライスカード・売り場POPや包装、インターネットの生産者サイトなど、さまざまな形で野菜に関する情報が消費者に提供されている。法令等で表示が義務付けされている情報から野菜の付加価値を説明する情報まで、生鮮野菜を購入するときに、消費者はどの情報を確認し知りたがっているのか？ 確認している情報／知りたい情報を聞いた。

- 購入時に何らかの情報を確認する人は99%

「いつも確認」は86%、「たまに確認」は13%

- 確認する情報では、①生産国(国産か輸入か) ほぼ全員(98%)、②国内の生産地(都道府県、市町村) 6割弱(56%)、③遺伝子組換えかどうか 4割強(43%)、④おおよその消費期限 3割強(32%) ⑤農薬の使用の有無・回数 3割弱(26%)の順で、法令等ですべての生鮮野菜に表示を義務付けられている情報が上位を占めている。

- 知りたい情報では、①生産国 9割強(94%)、②③同率で「国内の生産地」「農薬の使用の有無・回数」 約6割(61%)、④収穫日・出荷日 6割弱(56%)、⑤遺伝子組換えかどうか 5割強(55%) の順となっており、①を除いて確認している人の割合よりも多くなっている。

確認している情報と知りたい情報で大きく差がある項目について見ると、

- 「農薬の使用の有無、回数」…確認している26%、知りたい61%

安全面で最も気になる情報である。

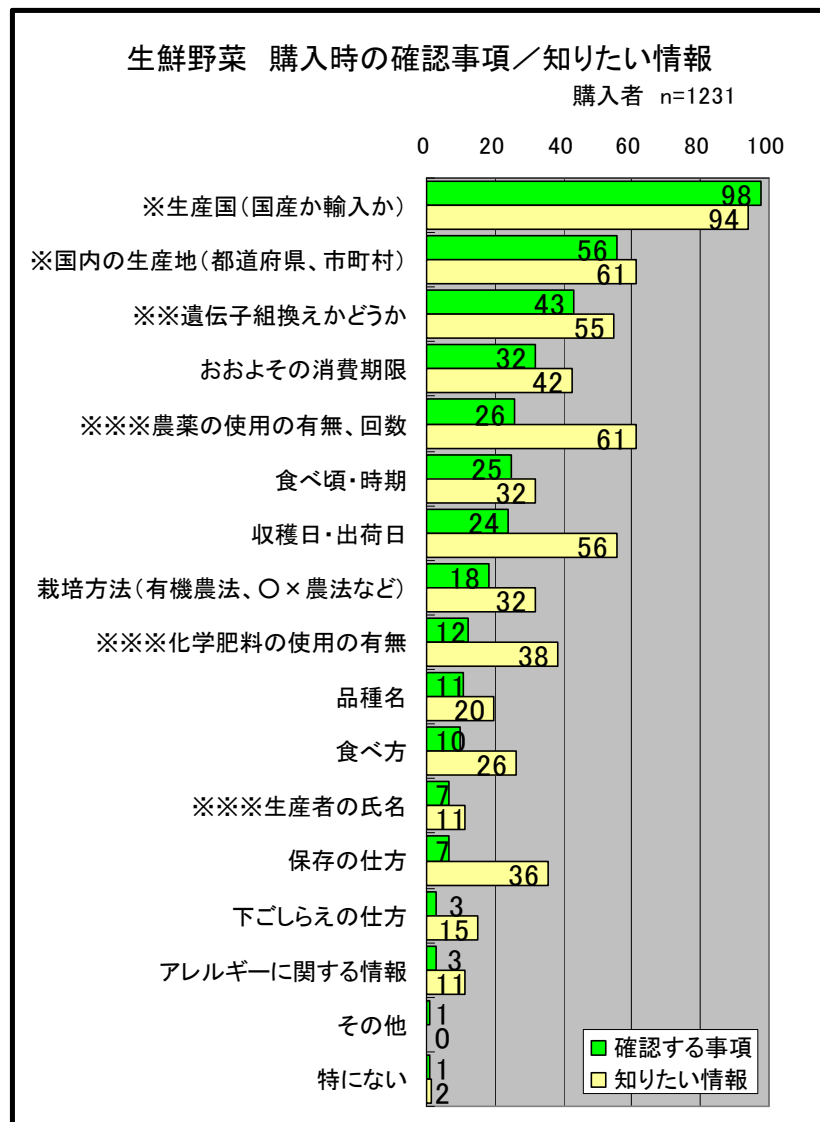
「特別栽培農産物や有機農産物」では、表示ガイドラインで農薬に関する情報を提供しよう規定されているが、購入時に「特別栽培農産物や有機農産物であること」を重視している人は1割程度と、情報を知りたいとする人に比べて少数である。農薬の使用状況に関する情報提供が行われていることが消費者に知られていないことも考えられ、消費者に浸透すれば特別栽培農産物の拡大につながる可能性がある。

- 「収穫日・出荷日」…確認している24%、知りたい56%

8割超の人が購入時に「鮮度が良いこと」を重視と回答しており、「おおよその消費期限」と併せて“鮮度を保証する指標”としてこれらの情報の提供を求めているものと考えられる。

■ 「保存の仕方」…確認している7%、知りたい36%

4割の人が購入時に「ちょうど良い量」を重視すると回答しており、新鮮なうちに使い切りたい・なるべく余らせたくないという気持ちが表れている。その裏返しとして、多めに買った場合の「保存の仕方」の情報を求めている。大束や箱売りの際は、「保存の仕方」も合わせて提供すれば効果的であると考える。



注) 生鮮野菜に関して、表示・提供する義務／ガイドラインがあるもの

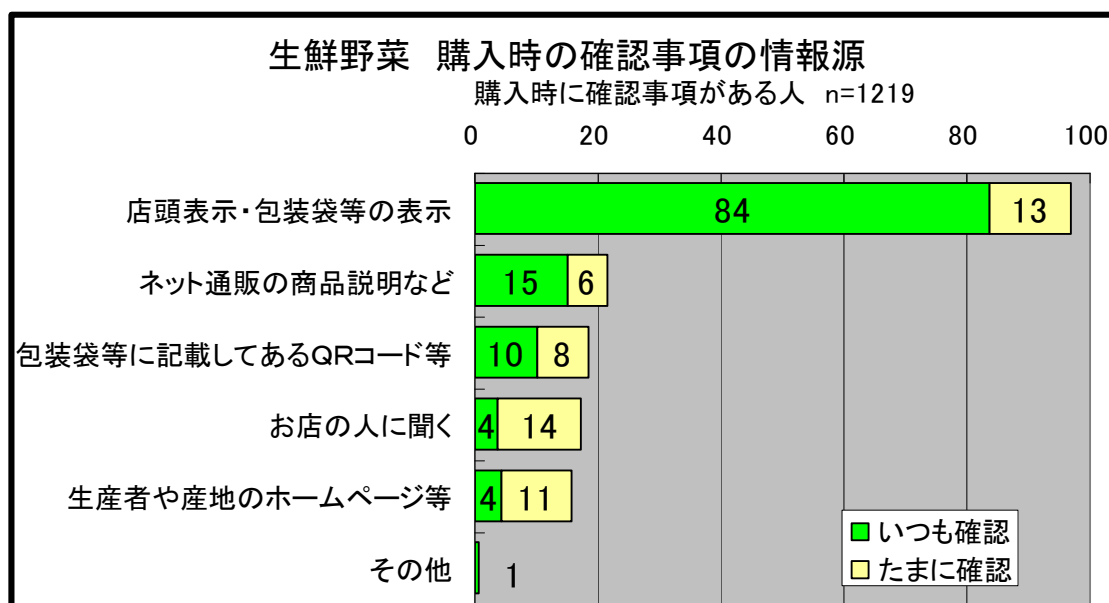
- ※ すべての生鮮野菜に表示義務あり
- ※※ 遺伝子組換え食品である場合に表示義務あり
- ※※※ 特別栽培農産物の表示ガイドラインで情報提供を規定

10 購入時に確認する情報の情報源は？

生鮮野菜を購入する際に確認している情報を「何で」「どの程度」確認しているのか？
確認する情報源を聞いた。

- ほぼ全員(97%)が「店頭表示・包装袋等の表示」を情報源としている。「ネット通販の商品説明やカタログ注文書の説明」「包装袋等に記載してあるQRコード等」「お店の人に聞いている」「生産者や産地のホームページ等」は2割前後が情報源として活用している。
- 前項で見たとおり、消費者は生鮮野菜の購入にあたっては多くの情報を求めている。そのすべてを「店頭表示・包装袋等の表示」で伝えることは困難である。QRコードの活用や「生産者や産地のホームページ」の充実が、産地への信頼を高めるものと考える。

なお、平成18年青果物・花き集出荷機構調査(農林水産省、平成20年6月5日公表)によると、野菜の集出荷組織(2,110組織)のうち、消費者に対して情報提供を行っている組織は481組織で23%、ホームページで提供している組織は430組織で20%となっている。



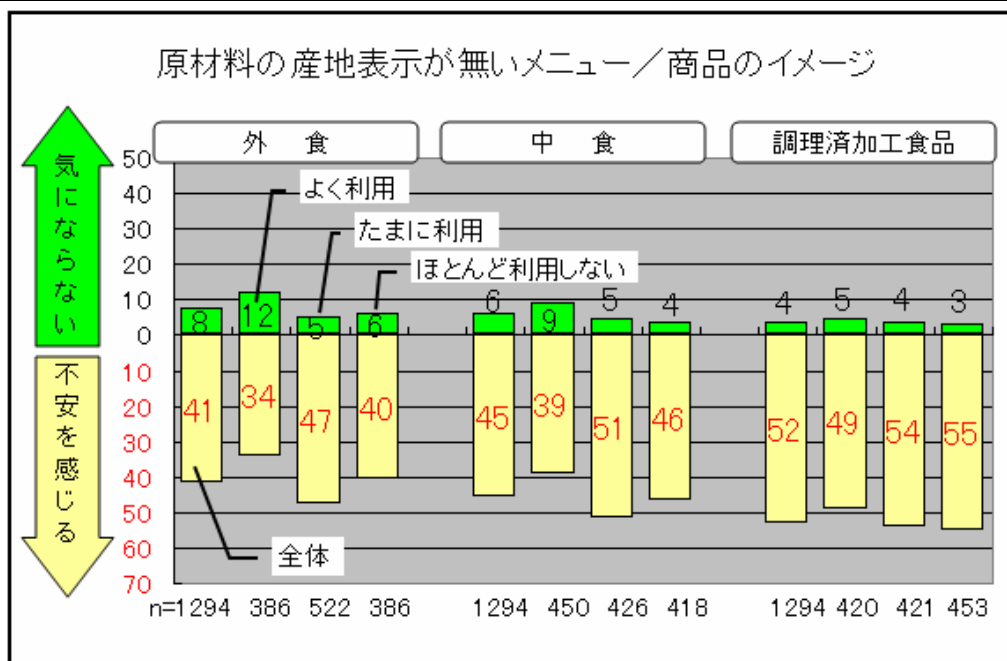
1 1 原料原産地表示が無い調理済加工食品・中食・外食のイメージは？

生鮮野菜や冷凍野菜・半加工野菜の購入時には、97～85%の人が「表示」により生産国や原料原産地を確認し、多くの人がある情報をもとに購入するか否かを判断している。それでは、冷凍野菜や半加工野菜より購入・利用する頻度が高い調理済加工食品や中食、外食※の原料について消費者はどのようなイメージを持っているのか？ 原料原産地表示が無い商品やメニューに対するイメージを聞いた。

- 原料原産地の表示が無い商品やメニューに対して、「特に気にならない」とする人は少数で、「原材料が国産か輸入品かが気になる／不安だ」とする人が4割～5割強となっている。特に、調理済加工食品で不安を感じる割合が高くなっており、中国産冷凍ぎょうざ事件の影響も考えられる。
- 利用頻度別に見ると、“たまに利用する人”に「気になる／不安」とする人が多い。“よく利用する人”では「気にならない」人の割合が若干高くなっているが、外食・中食でも1割程度である。

多くの消費者が、調理済加工食品や中食・外食においても、原料原産地に関する情報を求めていると言えよう。

※これらの商品／サービスは“野菜”に限定することが難しいため全般的なイメージを聞いている。

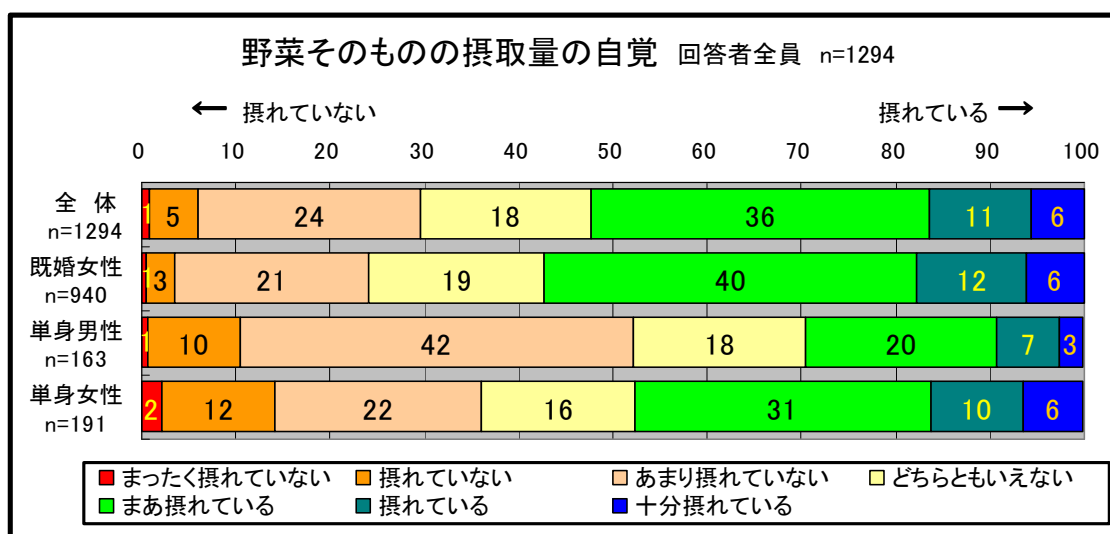


よく利用＝週に1回以上利用 たまに利用＝月に2～3回利用 ほとんど利用しない＝それ以下

1 2 「野菜そのものの摂取量」の自覚

野菜ジュースやサプリメントを除いた野菜そのものの摂取量の自覚を、「まったく摂れていない」「摂れていない」「あまり摂れていない」「どちらともいえない」「まあ摂れている」「摂れている」「十分摂れている」の7段階に分けて聞いた。

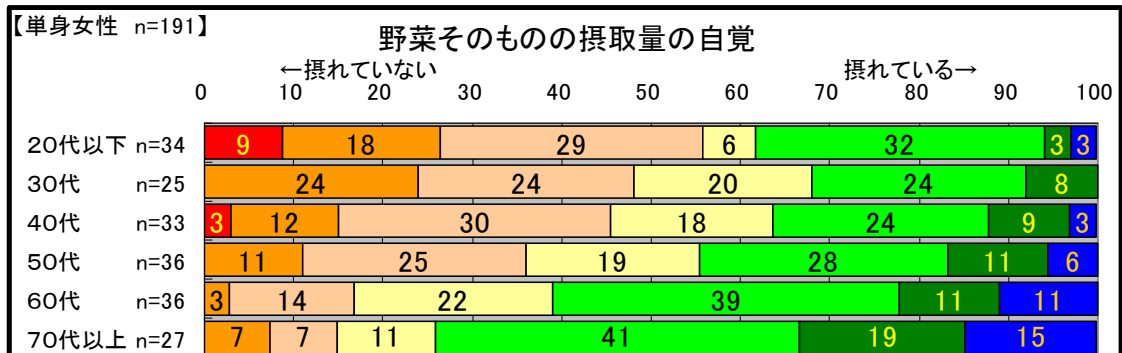
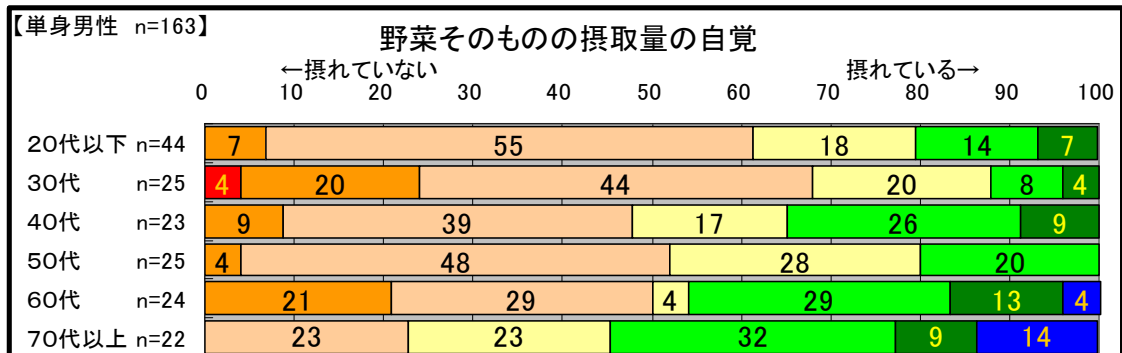
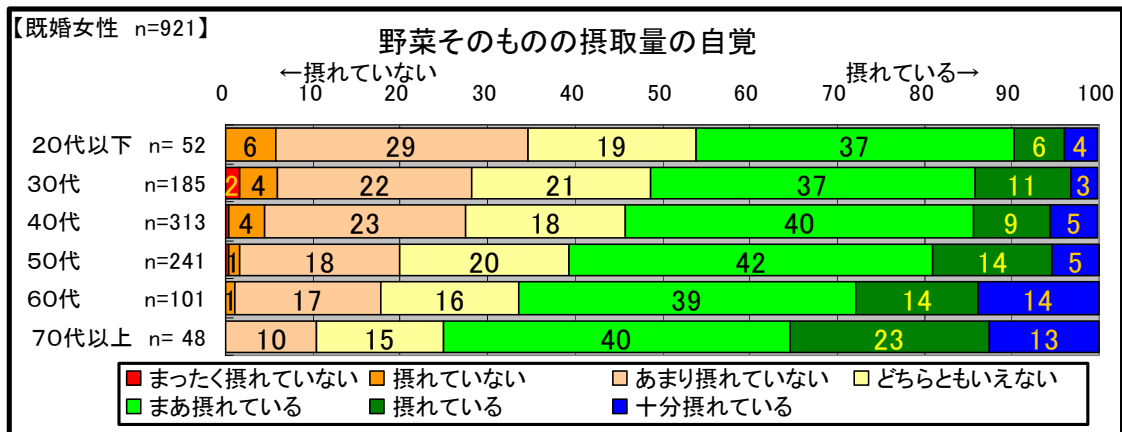
- 全体では、「まあ摂れている」が4割弱(36%)で最多。
「まあ摂れている」～「十分摂れている」の合計は半数強(53%)で、「あまり摂れていない」～「まったく摂れていない」の合計(3割)を上回っている。
- 既婚女性と単身者を比較すると、「あまり摂れていない」～「まったく摂れていない」割合が単身者で高く、特に、単身男性では、「あまり摂れていない」人が4割超(42%)で最多となっており、「あまり摂れていない」～「まったく摂れていない」の合計も半数を超えている。



注)この設問とクロス集計する場合は、「まったく摂れていない」を「摂れていない」に、「十分摂れている」を「摂れている」に合算して、「摂れていない」「あまり摂れていない」「どちらともいえない」「まあ摂れている」「摂れている」の5段階に再分類している。

年代別に見ると、

- 既婚女性・単身女性では、野菜そのものの摂取量の自覚の年代別傾向が明らかに認められ、年代が低くなるほど“摂れていない”と自覚する割合は高くなっている。単身女性20代以下では約1割が「まったく摂れていない」と回答している。
- 単身男性でも、同様の傾向が認められるが、女性ほど顕著ではない。20代以下・30代・50代では、“摂れている”と自覚している人は2割程度と少数である。

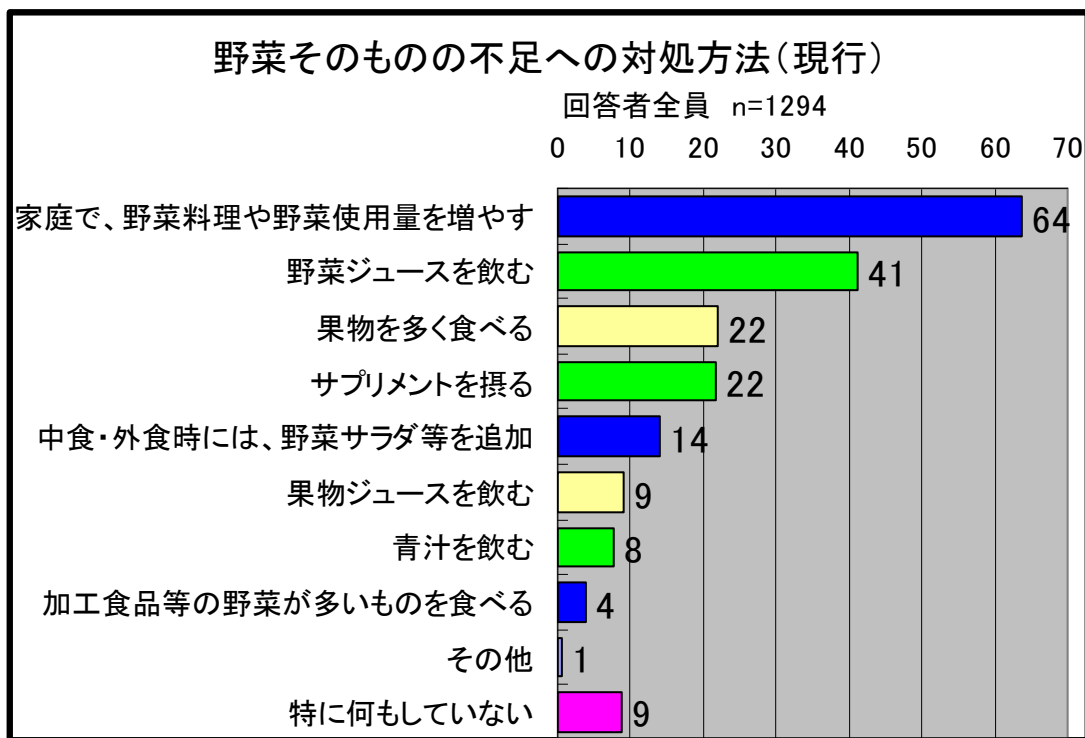


1 3 「野菜そのものの不足」に対する現行の対処方法

「野菜そのものの摂取量」の自覚では、「摂れていない」「あまり摂れていない」「どちらともいえない」人は約半数であった。野菜そのものが摂れていない人は、野菜そのものの不足をどのように補っているのか？ また、摂れている人はどのような方法で野菜を摂っているのか？ 現行、実施している対処方法を聞いた。

【全体】

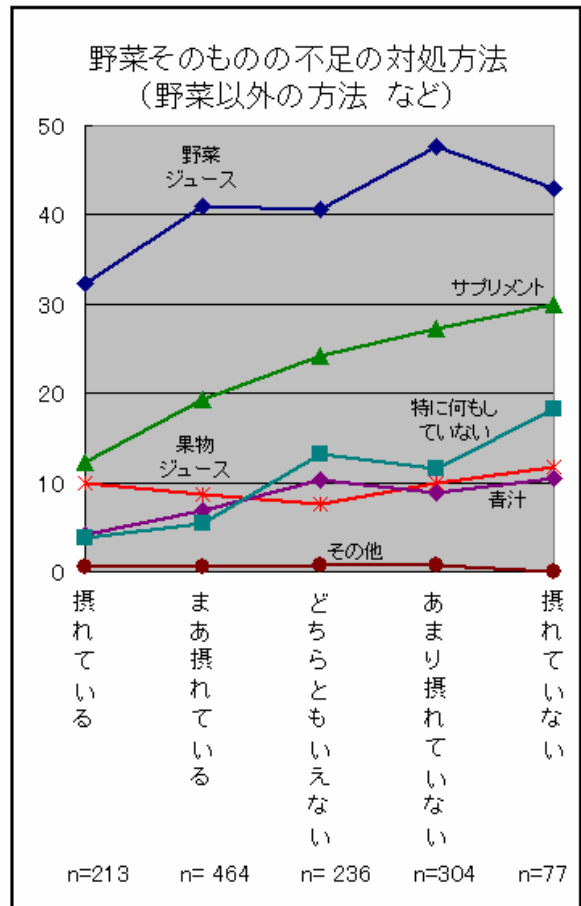
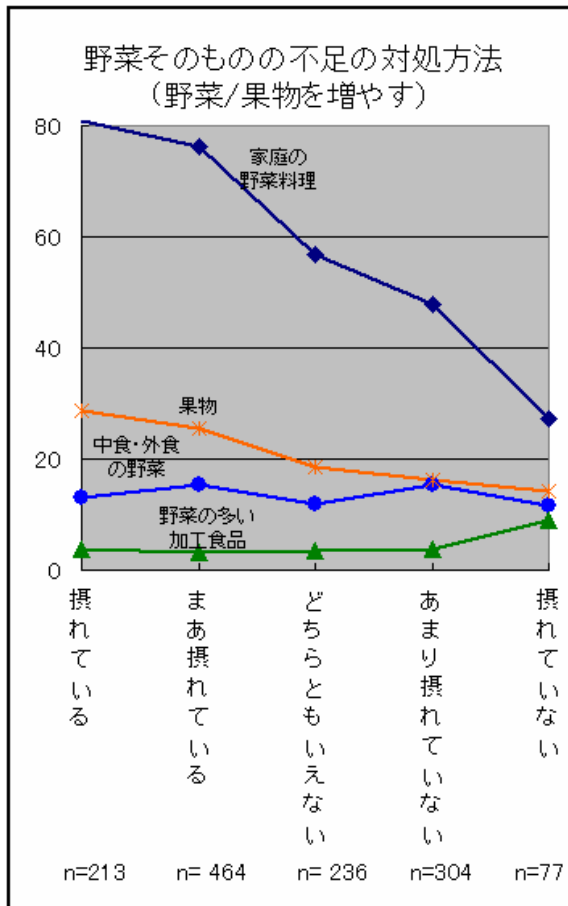
■ 対処方法としては、「家庭で、野菜料理や使用する野菜の量を増やす」ようにしているが6割強(64%)で1位、次いで「野菜ジュースを飲む」ようにしているが約4割(41%)で2位、「果物を多く食べる」「サプリメントを摂る」ようにしているが2割ずつ(22%)の順となっている。



■ 野菜そのものを増やす □ 果物で補う ■ その他の方法で補う

【野菜そのものの摂取量の自覚別】

- 「家庭で野菜料理／使用量を増やす」ようにしている割合(グラフ左)は、摂取量が少ないと自覚しているほど低くなっている。「中食・外食時の野菜追加」や「加工食品の野菜の多いもの」は野菜そのものの摂取量の自覚別の傾向がないことから、(摂取量の自覚)≒(家庭での野菜料理の多寡)であると見ることができる。
- 野菜そのものの不足に対して「特に何もしていない」割合(グラフ右)は、摂取量が少ないと自覚しているほど高く、「摂れていない」では2割近い。
- 一方で、野菜そのものの摂取量が少ないと自覚しているほど、「野菜ジュース」「サプリメント」「青汁」を飲んでいる割合が高くなっており、野菜そのものの不足を何とか補おうと努めている姿がうかがえる。



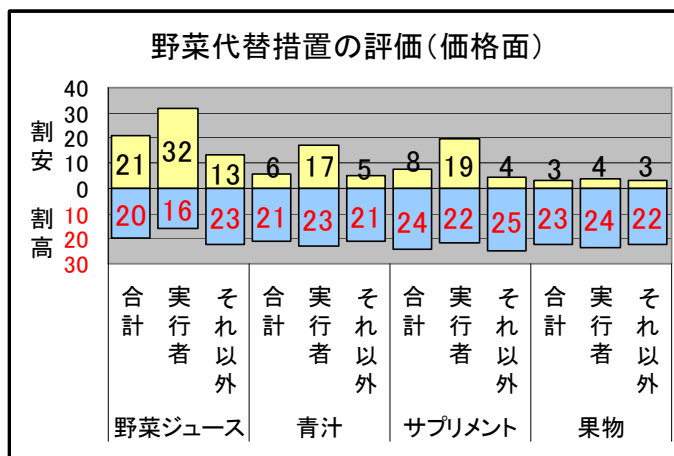
1.4 野菜ジュース等のイメージ

野菜そのものの不足に対して、それぞれの対処方法を取っている人(以下 実行者)は、その代替措置についてどのようなイメージを持っているのか？ 野菜ジュース、青汁、サプリメント、果物について聞いた。

■ 価格面

対処方法として実行者もそれ以外の人も2割強が、それぞれの代替措置について「野菜そのものを摂るより(値段的に)割高である」イメージを持っている。

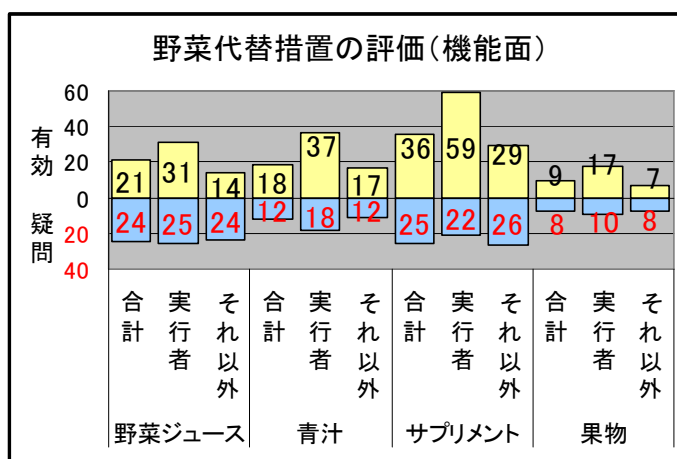
野菜ジュース・青汁・サプリメントでは、「野菜そのものを摂るより(値段的に)割安である」イメージを持つ人の割合が実行者で高くなっており、野菜ジュースでは全体でも「割高」より「割安」の方が多くなっている。



■ 機能面

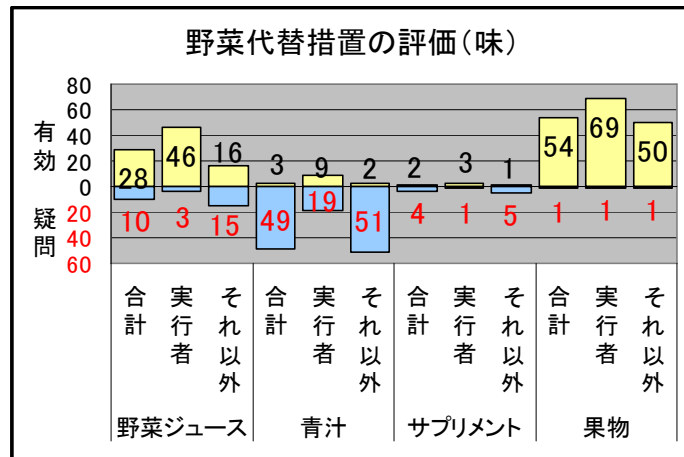
「(有効)野菜の代替に十分なりうる／不足している成分のみを補いやすい」とする人は、サプリメントの実行者では6割、野菜ジュース・青汁の実行者で3割超となっており、サプリメントを機能面で評価する人が多い。

一方で、「本当に不足分を補えているのか不安である(有効成分等が壊れている危惧)」としている人も、野菜ジュース・サプリメントでは2割を超えている。



■ 味

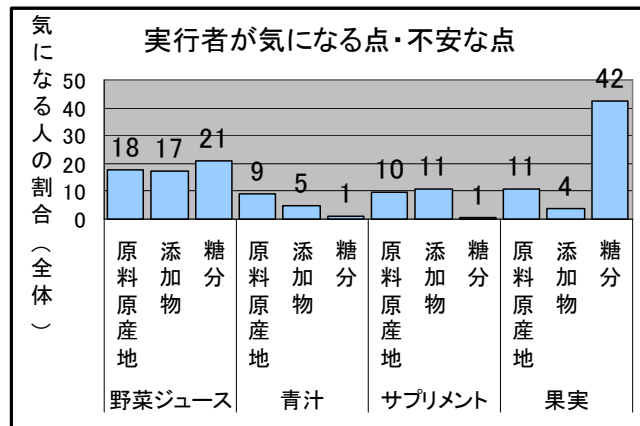
味の面では、果物の評価が高いのは当然として、野菜ジュースの実行者で「おいしい」とする人の割合が高い。青汁については、実行者以外の人々の半数以上が「まずい」イメージを持っている。



それぞれの対処方法について、実行者が気になる点・不安な点、評価している点を見ると、

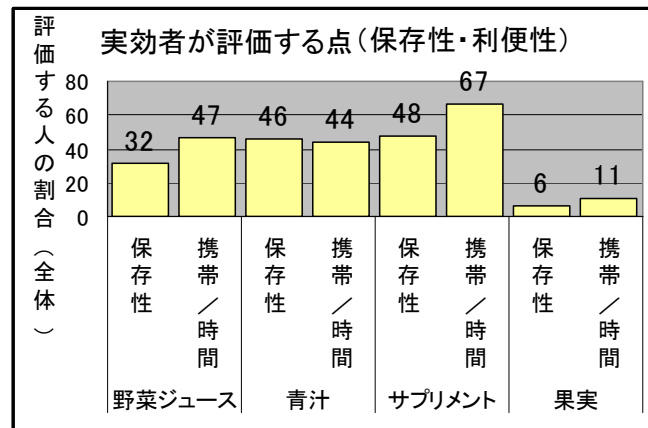
■ 気になる点・不安な点

「原料の産地が不安である」「添加物等が不安である」人は、野菜ジュースでは2割近く、青汁・サプリメント・果物の2~3倍となっている。また、「糖分が気になる」人は果物では4割を超えており、野菜ジュースでも2割を超えている。



■ 評価している点

野菜ジュース・青汁・サプリメントの実行者は「保存が利く」「携帯・携行に便利である／時間を選ばず摂れる」点を高く評価していることがわかる。



15 野菜不足とは思わない人

野菜そのものに加え、野菜ジュースやサプリメントの摂取など野菜不足を補う対処方法を行っている人は9割に達している。それでは、それらの対処方法を取った結果「野菜不足になっているとは思わない」のか、「野菜不足になっている」と思っているのか？ 野菜不足の認識と野菜不足になっている理由を聞いた。

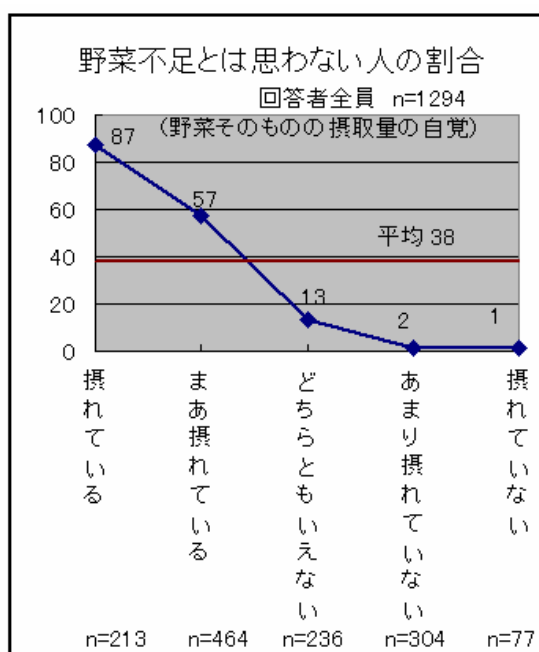
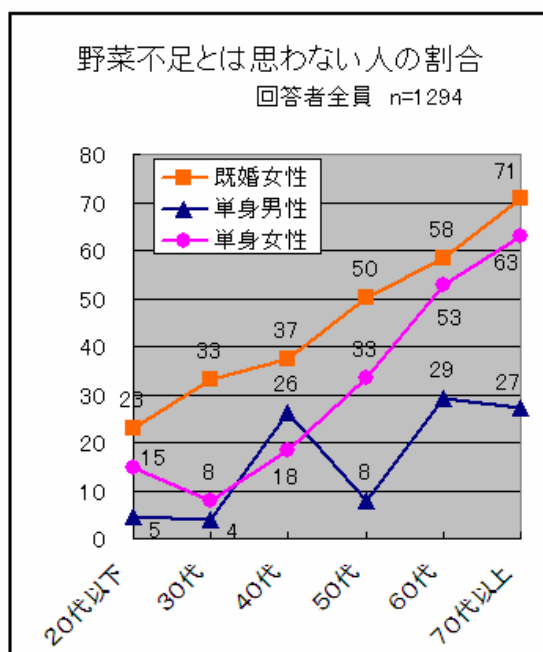
【野菜不足にはなっていないと思う人】

■ 「野菜不足にはなっていないと思う」は

全体 38%、既婚女性 43%、単身男性 15%、単身女性 32%

■ 既婚女性・単身女性では、年代が高くなるほど野菜不足ではないと思う人が多くなっている。単身男性では、20代以下・30代・50代が極めて低い数値となっている。

■ 野菜そのものの摂取量が少ないと自覚している人ほど、「野菜ジュース」「サプリメント」「青汁」等で不足を補おうと努めている姿がうかがわれた(13項参照)。しかし、野菜そのものの摂取量が少ない人では、野菜不足とは思わない人は極端に少なくなっており(グラフ右)、野菜ジュースやサプリメントを摂取しても、野菜そのものの不足は補えていないと思っている人が多いことを表している。



既婚女性・単身女性では、「野菜不足になっているとは思わない」人の割合は、年齢に比例して多くなり、70代以上では約7割が野菜不足ではないと認識している。自覚と野菜の摂取量は合致しているのか？ 野菜を350g以上^{*}摂取している人^{**}を「野菜不足になっていない」として、「野菜不足になっているとは思わない」人の割合と比較した。

■ その結果、「野菜不足になっているとは思わない」人が、「野菜不足になっていない」人を全体的に上回っている。

特に、60代・70代以上では13ポイント・29ポイントの開きあり、自覚と摂取量のズレが生じている。

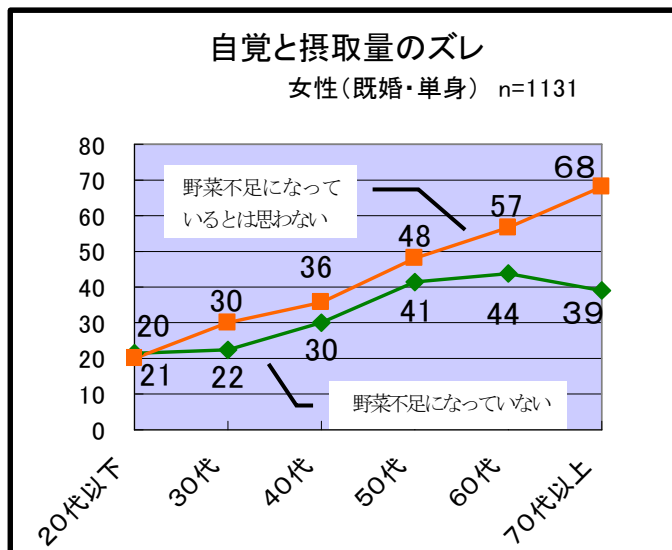
■ 野菜類の摂取量については、統計上は野菜類といも類は別分類となっており、健康日本21における目標値350gも、いも類を除く数値である。しかし、実際は“里芋の煮物”も野菜料理として考えるのが一般的な感覚であると思われ

る。また、60代女性の30%・70代女性の45%が、野菜そのものの不足への対処方法で「果物を多く食べる」を挙げており、野菜と果物を同じものと考えている人が多い。

■ 60代以上の女性では、緑黄色野菜・淡色野菜その他の摂取量が少なくても、芋や果実を食べているから「野菜不足になっているとは思わない」人が多くいる可能性が高い。

■ 日常の生活の中で、自分や家族が食べた緑黄色野菜・淡色野菜その他の重量を把握することは大変難しい。

野菜売場に緑黄色野菜・淡色野菜の350g見本を陳列するなど、摂取量の基準の“見える化”も重量の把握の一助になると考える。



^{*}健康日本21(21世紀における国民健康づくり運動)における緑黄色野菜・その他の野菜の1日当たり成人平均摂取量の目標値

^{**} 割合は、平成17年国民健康・栄養調査(厚生労働省)の野菜類摂取量(女、年齢階級別)から筆者計算

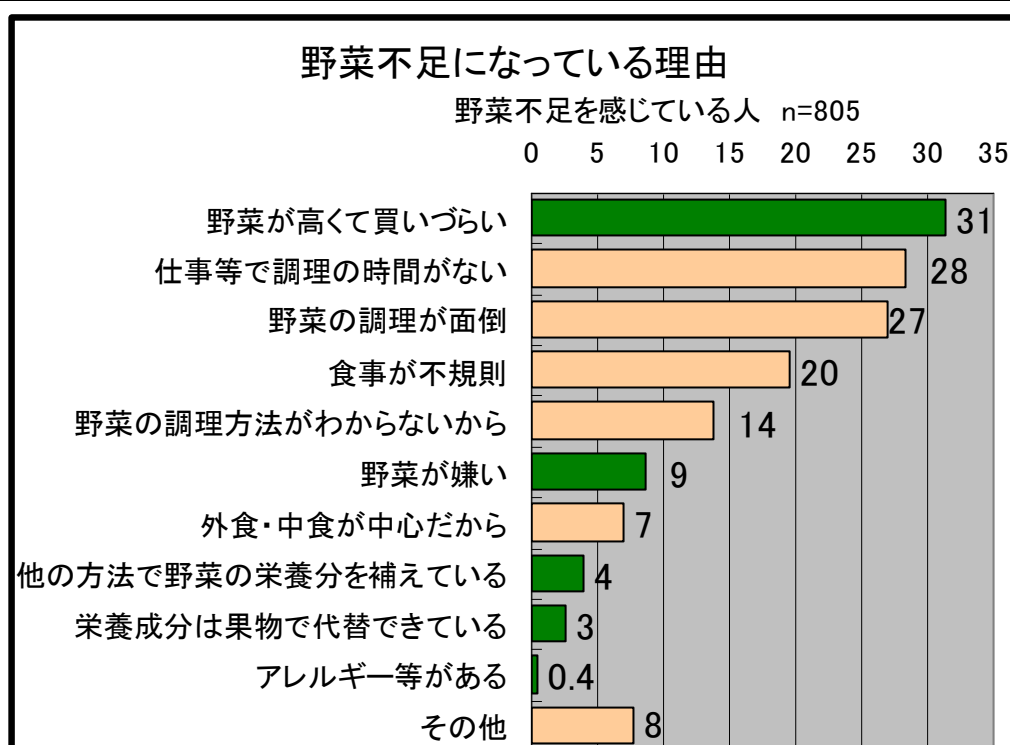
1 6 野菜不足になっている理由

「野菜不足になっているとは思わない」人は全体の4割、6割は野菜不足を感じている。それでは、野菜不足を感じている人(n=805)は、なぜ野菜不足になっているのか、野菜不足を感じている人にその理由を聞いた。

■ 野菜不足になっている理由

1位	野菜の価格が高くて買いづらいから	31% (21%)
2位	仕事・他の家事で調理の時間がないから	28% (19%)
3位	野菜の調理は面倒だから	27% (18%)
4位	食事が不規則だから	20% (13%)
5位	野菜の調理方法がよくわからないから	14% (9%)

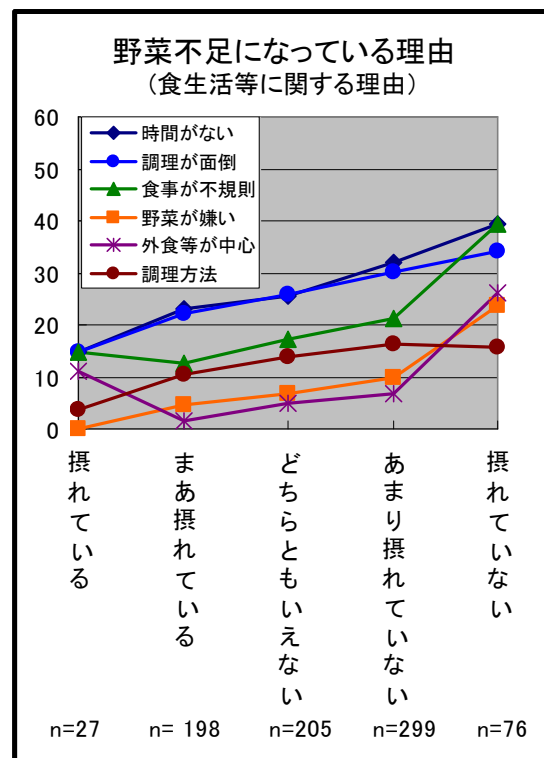
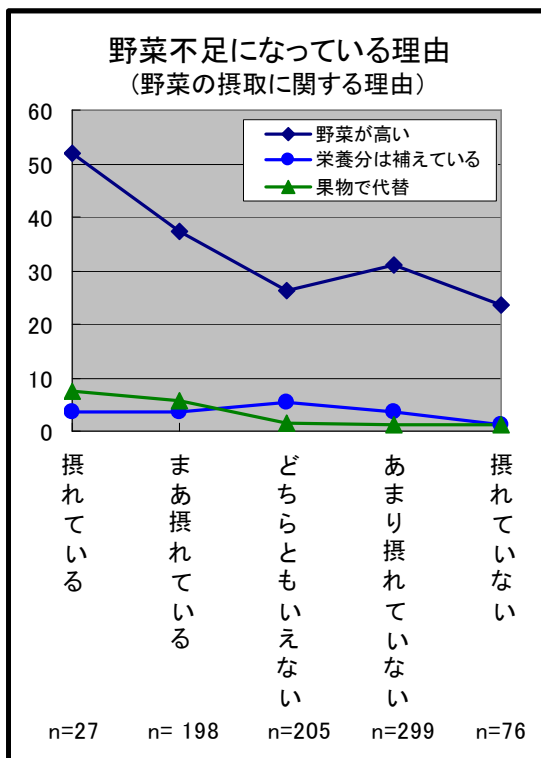
の順となっている。()は購入者 n=1231 に対する割合



■ 野菜の摂取に関する理由、■ 生活習慣・食生活に関する理由 他

野菜そのものの摂取量の自覚別に見ると、

- 全体1位の「野菜の価格が高くて買いづらい」(グラフ左)は、野菜そのものの摂取量が多いと自覚している人ほど、割合が高くなっている。摂取量が多い人は、既に一定金額を購入していると考えられ、“もう一品買おうとすると高く買いづらい”という感覚の人が多くいると思われる。
- 全体2位から5位の生活習慣や食生活に関する理由(グラフ右)は、野菜そのものの摂取量が少ないと自覚しているほど、割合が高くなっている。摂取量が少ない人ほど、手軽に摂取できる「野菜ジュース」「サプリメント」で不足補う傾向が強く、不足に対して「特に何もしていない」割合も高くなっている(13項参照)。野菜そのものの摂取を増やすには、「生活習慣や食生活を改善したい」意識をもう一押し喚起することが必要である。
- 「その他」の内容では、「食が細いため／基準量は食べられない」「基準量がわからない／食べている量がわからない」ので不足かどうか判断できない」「一人住まいでは種類を多く食べられないため」等の意見が見られる。

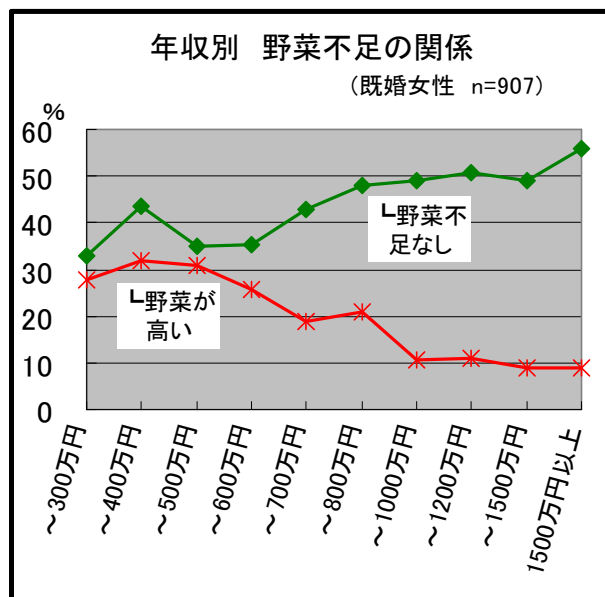


「野菜の価格が高くて買いづらい」から野菜不足となっていると回答した人は、既婚女性では、野菜不足になっている人の約4割(37%)、全体の2割であった。“野菜が高い”という感覚はどこから来るのか？ 野菜不足になっているとは思わない人との比較で、検証する。

■ 年収*と野菜不足の関係を既婚女性について見ると、「野菜不足になっているとは思わない(以下 野菜不足なし)」は年収が高くなるほど増加している。一方、「野菜の価格が高くて買いづらい(以下 野菜が高い)」は、年収600万円未満では3割、600～800万円未満で2割、800万円以上では1割程度と年収が高くなるほど低下している。

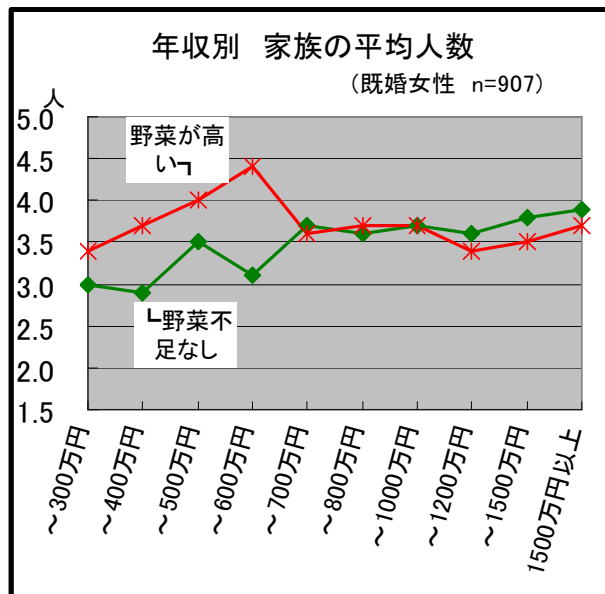
野菜の過不足感は、年収との関係が強いことがわかる。

※サンプル数が少ない200万円未満を除く



■ 「野菜不足なし」と「野菜が高い」の属性を比較すると、家族人数の違いが大きい。家族の平均人数は、600万円以上では両者とも3.5人程度でほぼ同人数となっているが、「野菜が高い」の比率が高い600万円未満の層では「野菜が高い」が「野菜不足なし」を0.4～1.3人上回っており、「野菜が高い」とする人は比較的家族人数が多いことがわかる。

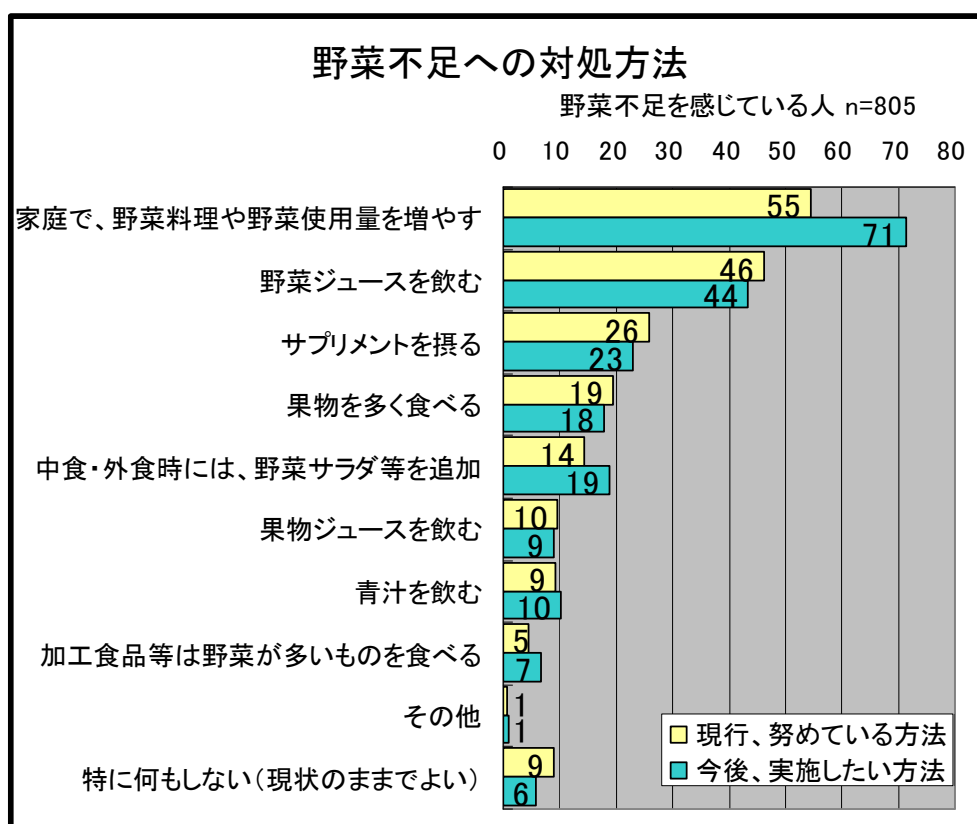
同じ年収で生活していく上では、人数が多い分これらの層は、物の値段に敏感にならざるを得ないと言える。



17 「野菜そのものの不足」に対する今後の対処方法

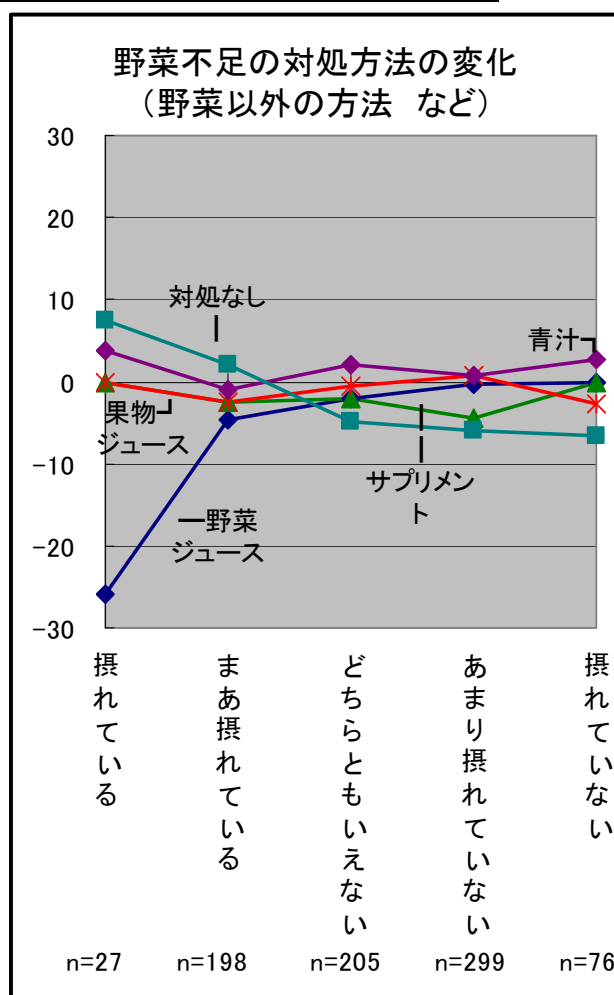
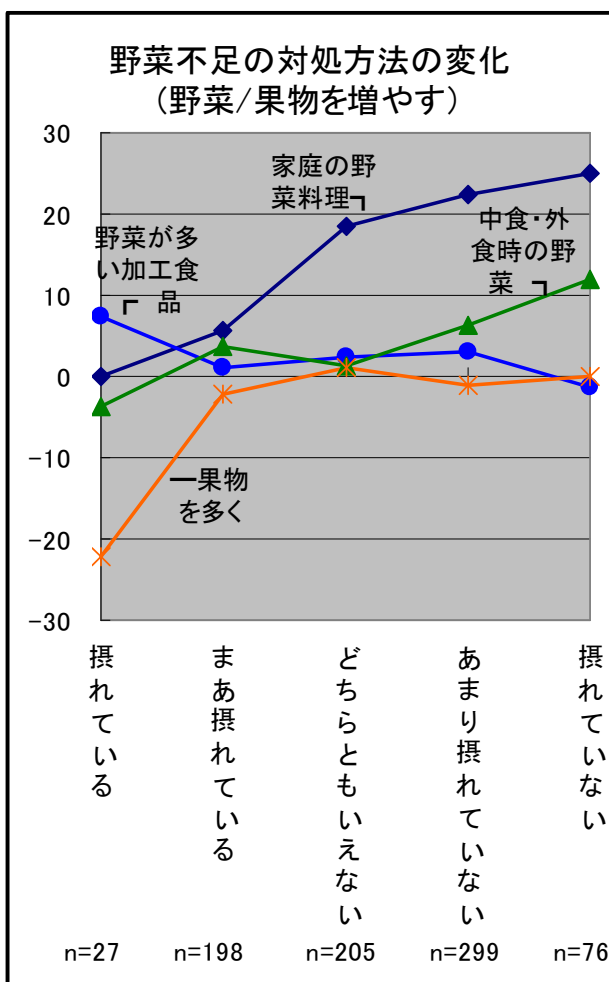
野菜不足を感じている人(n=805)は、野菜そのものの不足に対して、今後どのように対処しようとしているのか？ 今後の対処方法を聞いた。

- 「特に何もしない(現行のままでよい)」とする人は6%で、9割以上は何らかの対処をしたいと考えている。
- 今後の対処方法は、「家庭で、野菜料理や使用する野菜の量を増やす」71%、「野菜ジュースを飲む」44%、「サプリメントを摂る」23%、「中食(お弁当)や外食時には、野菜サラダ等の1品を加える」19%の順となっている。
- 現行の対処方法に比べて、「家庭で、野菜料理や使用する野菜の量を増やす」は16ポイント、「中食(お弁当)や外食時には、野菜サラダ等の1品を加える」は5ポイント上昇しており、野菜そのものの摂取量を増やして行きたい人が多くなっている。



次のグラフは、今後実施したい割合と現行実施している割合の差を図示したものである。

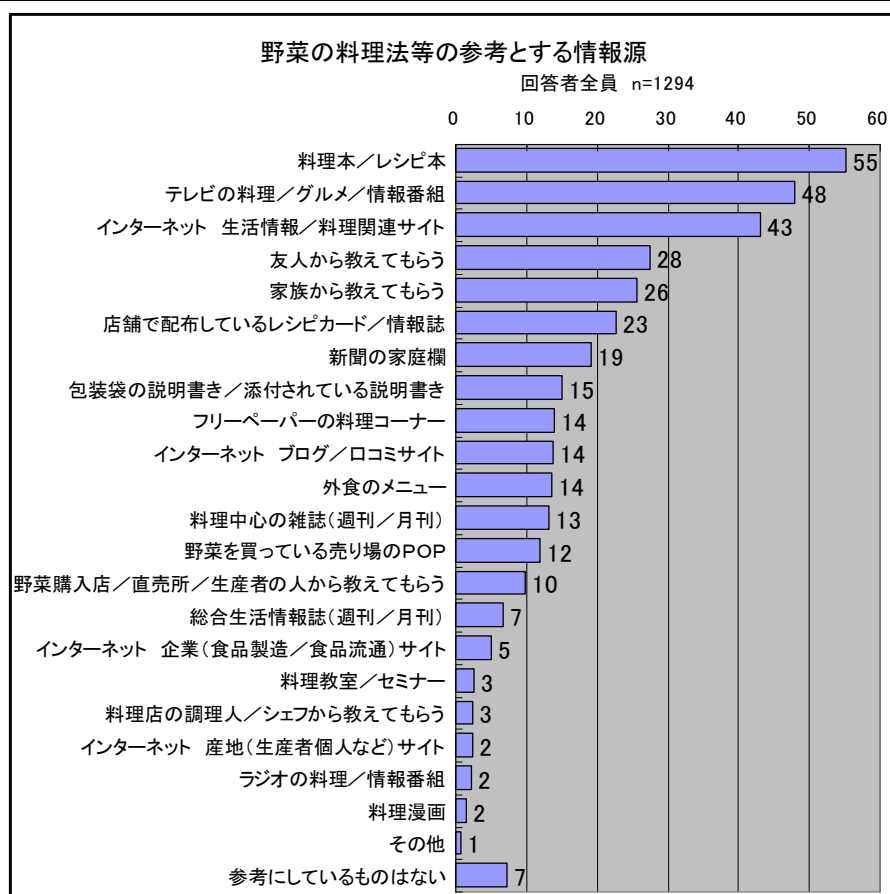
- 上昇幅の大きい「家庭の野菜料理」「中食・外食時の野菜」は、野菜そのものの摂取量が少ない人ほど、今後実施していきたい割合が高くなっている。
- 野菜そのものの摂取量が少ない人が野菜不足の理由に挙げている「時間が無い」「調理が面倒」「調理方法がわからない」の解消につながる提案をできれば、「家庭の野菜料理や野菜の使用量を増やしたい」ニーズをつかめる可能性が高い。



18 新しい食べ方や下ごしらえ、料理方法の情報源は？

野菜を購入する際の情報源は「店頭表示や包装袋の表示」が大多数であった。それでは、新しい食べ方や調理法、下ごしらえの仕方などの情報は何を参考にしているのか？情報源を聞いた。

- 参考とする情報源は、①料理本／レシピ本 ②テレビ ③インターネットの生活情報／料理関連サイト ④友人 ⑤家族 の順となっている。調査対象がインターネット利用者であることも一因とは考えられるが、「インターネットの生活情報／料理関連サイト」を参考にしている割合は4割を超えている。
- 産地や流通業者が提供している情報源では、「店舗で配布しているレシピカード／情報誌」23%、「包装袋の説明書き」15%、「売り場のPOP」12%が比較的多く利用されている。同じインターネットであっても企業サイト／産地サイトは生活情報サイトに比べて参考としている人は、まだ、かなり少ない。



設問と単純集計

Q1 あなたは、普段、ご自分で野菜を購入されますか。*ここでいう「購入」は、その手法は問いません。店頭での買い物、ネット通販・宅配など全て含みます。(回答は1つ)

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
1 購入している	1120	86.6
2 購入している 自給(含む家庭菜園等)もあるが、通常食べる量の半分以上は	111	8.6
3 自給しており殆ど購入しない	9	0.7
4 実家・親戚などから分けてもらっており、殆ど購入しない	17	1.3
5 家で調理をしないので野菜は購入しない	31	2.4
6 その他 具体的に:	6	0.5

Q2 あなたは、普段、野菜を主にどこで購入していますか。(回答は1つ) 対象 Q1=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 スーパー・量販店	939	76.3
2 青果専門店・八百屋	76	6.2
3 生協	85	6.9
4 農産物直売所・JA直売所	80	6.5
5 有機野菜専門店(店舗販売)	4	0.3
6 ネット通販	7	0.6
7 食材宅配専門業	15	1.2
8 コンビニエンスストア・100円ショップ	5	0.4
9 デパート・百貨店	14	1.1
10 その他 具体的に:	6	0.5

Q3 あなたは普段、平均して、週何回くらい野菜を購入されますか。(回答は1つ)*宅配、通販、直接スーパー等での購入を併せてお答えください。対象 Q1=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 1回未満	66	5.4
2 1回	192	15.6
3 2~3回	724	58.8
4 4~5回	167	13.6
5 ほぼ毎日	82	6.7

Q4 あなたが一度に購入する野菜は、合計して大体いくらぐらい(金額)ですか。(回答は1つ) 対象 Q=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 500円未満	302	24.5
2 500円~700円未満	393	31.9
3 700円~900円未満	177	14.4
4 900円~1100円未満	184	14.9
5 1100円~1300円未満	75	6.1
6 1300円~1500円未満	41	3.3
7 1500円以上	59	4.8
平均値	745	円

Q5 あなたが一度に購入する野菜の量の目安はどれくらいですか。下記にあげる野菜の種類ごとにお答えください。(回答は野菜の種類ごとに1つずつ) 対象 Q1=1,2

(上段:度数、下段:%)

	大根・にんじん等の根菜類・いも類	ほうれん草・春菊等の葉菜類	なす・きゅうり・トマト等の果菜類
n(TOTAL)	1231	1231	1231
	100.0	100.0	100.0
1 1日で使いきる量	31	399	99
	2.5	32.4	8.0
2 2～3日で使いきる量	218	597	620
	17.7	48.5	50.4
3 4～5日で使いきる量	191	81	273
	15.5	6.6	22.2
4 約1週間分の量	402	123	198
	32.7	10.0	16.1
5 1週間分以上の量	162	10	13
	13.2	0.8	1.1
6 常時一定量を買置きしており、その補充をする量	227	21	28
	18.4	1.7	2.3

Q6 あなたは、野菜を購入する際に何を重視していますか。以下のうちから、重視している点を5つまでお答えください。(回答は5つまで) 対象 Q=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 販売単価が安いこと (例えば、128円の小松菜より118円のほうれん草を買う)	711	57.8
2 通常高価格なものが安くなっていること (例えば、通常は398円の有機トマトが300円になっている)	478	38.8
3 鮮度がよいこと	1027	83.4
4 特別栽培農産物や有機栽培農産物であること	126	10.2
5 国産品であること	831	67.5
6 産地が地元あるいは近県であること	250	20.3
7 有名な産地のものであること	17	1.4
8 見た目がきれいであること、形が整っていること	95	7.7
9 旬であること	615	50.0
10 味・食味がよいこと	387	31.4
11 ちょうど良い量であること	527	42.8
12 箱単位や大束などで、通常の販売単位に比べて割安であること	45	3.7
13 保存がきくこと	183	14.9
14 下ごしらえが簡単なこと、不要なこと	35	2.8
15 その他 具体的に:	10	0.8
16 特になし	4	0.3

Q5 あなたが一度に購入する野菜の量の目安はどれくらいですか。下記にあげる野菜の種類ごとにお答えください。(回答は野菜の種類ごとに1つずつ) 対象 Q1=1,2

(上段:度数、下段:%)

	大根・にんじん等の根菜類・いも類	ほうれん草・春菊等の葉菜類	なす・きゅうり・トマト等の果菜類
n(TOTAL)	1231	1231	1231
	100.0	100.0	100.0
1 1日で使いきる量	31	399	99
	2.5	32.4	8.0
2 2～3日で使いきる量	218	597	620
	17.7	48.5	50.4
3 4～5日で使いきる量	191	81	273
	15.5	6.6	22.2
4 約1週間分の量	402	123	198
	32.7	10.0	16.1
5 1週間分以上の量	162	10	13
	13.2	0.8	1.1
6 常時一定量を買置きしており、その補充をする量	227	21	28
	18.4	1.7	2.3

Q6 あなたは、野菜を購入する際に何を重視していますか。以下のうちから、重視している点を5つまでお答えください。(回答は5つまで) 対象 Q=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 販売単価が安いこと (例えば、128円の小松菜より118円のほうれん草を買う)	711	57.8
2 通常高価格なものが安くなっていること (例えば、通常は398円の有機トマトが300円になっている)	478	38.8
3 鮮度がよいこと	1027	83.4
4 特別栽培農産物や有機栽培農産物であること	126	10.2
5 国産品であること	831	67.5
6 産地が地元あるいは近県であること	250	20.3
7 有名な産地のものであること	17	1.4
8 見た目がきれいであること、形が整っていること	95	7.7
9 旬であること	615	50.0
10 味・食味がよいこと	387	31.4
11 ちょうど良い量であること	527	42.8
12 箱単位や大束などで、通常の販売単位に比べて割安であること	45	3.7
13 保存がきくこと	183	14.9
14 下ごしらえが簡単なこと、不要なこと	35	2.8
15 その他 具体的に:	10	0.8
16 特になし	4	0.3

Q6-1 その中で、あなたが野菜を購入する際に最も重視している点をお答えください。(回答は1つ)

対象 Q6≠16

	度数	%
TOTAL	1227	100.0
販売単価が安いこと		
1 (例えば、128円の小松菜より118円のほうれん草を買う)	209	17.0
通常高価格なものが安くなっていること		
2 (例えば、通常は398円の有機トマトが300円になっている)	84	6.8
3 鮮度がよいこと	418	34.1
4 特別栽培農産物や有機栽培農産物であること	27	2.2
5 国産品であること	325	26.5
6 産地が地元あるいは近県であること	42	3.4
7 有名な産地のものであること	0	0.0
8 見た目がきれいであること、形が整っていること	6	0.5
9 旬であること	43	3.5
10 味・食味がよいこと	24	2.0
11 ちょうど良い量であること	32	2.6
12 箱単位や大束などで、通常の販売単位に比べて割安であること	5	0.4
13 保存がきくこと	5	0.4
14 下ごしらえが簡単なこと、不要なこと	1	0.1
15 その他 具体的に：	6	0.5

Q6-2 その中で、あなたが野菜を購入する際に2番目に重視している点をお答えください。(回答は1つ)

対象 Q6≠16

	度数	%
TOTAL	1199	100.0
販売単価が安いこと		
1 (例えば、128円の小松菜より118円のほうれん草を買う)	188	15.7
通常高価格なものが安くなっていること		
2 (例えば、通常は398円の有機トマトが300円になっている)	97	8.1
3 鮮度がよいこと	317	26.4
4 特別栽培農産物や有機栽培農産物であること	17	1.4
5 国産品であること	218	18.2
6 産地が地元あるいは近県であること	66	5.5
7 有名な産地のものであること	2	0.2
8 見た目がきれいであること、形が整っていること	7	0.6
9 旬であること	80	6.7
10 味・食味がよいこと	75	6.3
11 ちょうど良い量であること	98	8.2
12 箱単位や大束などで、通常の販売単位に比べて割安であること	9	0.8
13 保存がきくこと	21	1.8
14 下ごしらえが簡単なこと、不要なこと	4	0.3
15 その他 具体的に：	0	0.0

Q7 あなたは、野菜を購入する際に、「国産品」か「輸入品」かを確認していますか。もっとも近いものをひとつお答えください。(回答は1つ)

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 確認して、国産しか買わない	391	31.8
2 確認して、なるべく国産を買うようにしている	626	50.9
3 確認はするが、その時の気分で両方買うことがある	104	8.4
4 確認はするが、値段が安い方を買う	58	4.7
5 確認はするが、形状・色合いなどのよい方を買う	11	0.9
6 確認はするが、味・食味などのよい方を買う	10	0.8
7 買うときに国産、輸入を確認していない	27	2.2
8 その他 具体的に：	4	0.3

Q8 あなたが、輸入野菜を買うときはどのような時ですか。(回答はいくつでも) 対象 Q7=2,3

	度数	%
TOTAL	730	100.0
1 品切れ等で国産品が無いとき	169	23.2
2 時期的に国産品が無いとき	213	29.2
3 国産品が輸入品に比べて極端に高いとき	285	39.0
4 輸入国が安心できる国のとき	356	48.8
5 その他 具体的に:	27	3.7

Q9 あなたが野菜を購入するときに、確認している情報をすべてお答えください。(回答はいくつでも)

対象 Q=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 生産国(国産か輸入か)	1203	97.7
2 国内の生産地(都道府県名、市町村)	683	55.5
3 収穫日・出荷日	292	23.7
4 農薬の使用の有無、回数	317	25.8
5 化学肥料の使用の有無	149	12.1
6 栽培方法(有機農法、 σ *農法など)	227	18.4
7 遺伝子組換えかどうか	531	43.1
8 品種名	133	10.8
9 食べ頃・時期	305	24.8
10 アレルギーに関する情報	33	2.7
11 生産者の氏名	83	6.7
12 下ごしらえの仕方	35	2.8
13 食べ方	123	10.0
14 保存の仕方	82	6.7
15 おおよその消費期限	392	31.8
16 その他 具体的に:	14	1.1
17 特になし	12	1.0

Q10 あなたは、Q9の情報を「何で」「どの程度」確認していますか。(回答はいくつでも) 対象 Q1=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 【いつも確認】 店頭表示・包装袋等の表示	1023	83.1
2 【いつも確認】 ネット通販の商品説明やカタログ注文書の説明	185	15.0
3 【いつも確認】 お店の人に聞いている	46	3.7
4 【いつも確認】 包装袋等に記載してあるQRコード等	123	10.0
5 【いつも確認】 生産者や産地のホームページ等	54	4.4
6 【たまに確認】 店頭表示・包装袋等の表示	164	13.3
7 【たまに確認】 ネット通販の商品説明やカタログ注文書の説明	76	6.2
8 【たまに確認】 お店の人に聞いている	165	13.4
9 【たまに確認】 包装袋等に記載してあるQRコード等	101	8.2
10 【たまに確認】 生産者や産地のホームページ等	139	11.3
11 その他 具体的に:	13	1.1

Q11 あなたが野菜を購入するときに、知りたい情報をすべてお答えください。(回答はいくつでも)

対象 Q1=1,2

	度数	%
TOTAL	1231	100.0
1 生産国(国産か輸入か)	1158	94.1
2 国内の生産地(都道府県名、市町村)	755	61.3
3 収穫日・出荷日	685	55.6
4 農薬の使用の有無、回数	751	61.0
5 化学肥料の使用の有無	473	38.4
6 栽培方法(有機農法、e×農法など)	394	32.0
7 遺伝子組換えかどうか	675	54.8
8 品種名	240	19.5
9 食べ頃・時期	392	31.8
10 アレルギーに関する情報	138	11.2
11 生産者の氏名	139	11.3
12 下ごしらえの仕方	186	15.1
13 食べ方	322	26.2
14 保存の仕方	439	35.7
15 おおよその消費期限	522	42.4
16 その他 具体的に:	4	0.3
17 特になし	18	1.5

Q12 あなたは、半加工品(カット野菜単品、カット野菜ミックス品)、冷凍野菜などの産地を確認をしていますか。購入頻度と合わせてお答えください。(回答は種類ごとに1つずつ)

(上段:度数、下段:%)

	半加工品	冷凍野菜
n(TOTAL)	1294	1294
1 【ほとんど買わない】産地表示は確認しない	100	100
	659	561
	50.9	43.4
2 【たまに買う】包装パックの産地表示を確認し国産のものだけを買う	201	214
	15.5	16.5
3 【たまに買う】包装パックの産地表示を確認し原産国が安心できる国であれば買う	159	227
	12.3	17.5
4 【たまに買う】包装パックの産地表示を確認するが原産国は特に意識せず買う	40	40
	3.1	3.1
5 【たまに買う】買う際に産地表示はあまり確認していない	55	40
	4.3	3.1
6 【よく買う】包装パックの産地表示は必ず確認し国産のものだけを買う	53	52
	4.1	4
7 【よく買う】包装パックの産地表示を確認し原産国が安心できる国であれば買う	39	74
	3	5.7
8 【よく買う】包装パックの産地表示を確認するが原産国は特に意識せず買う	11	21
	0.9	1.6
9 【よく買う】買う際に産地表示はあまり確認していない	35	21
	2.7	1.6
10 その他	42	44
	3.2	3.4

Q13 あなたが野菜の下ごしらえの方法やレシピ、新しい食べ方の参考とするものはどれですか。いくつかでも教えてください。(回答はいくつでも)

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
1 料理本/レシピ本	713	55.1
2 料理中心の雑誌(週刊/月刊)	171	13.2
3 総合生活情報誌(週刊/月刊)の料理コーナー	86	6.6
4 フリーペーパーの料理コーナー	181	14.0
5 テレビの料理番組/グルメ番組/情報番組	621	48.0
6 ラジオの料理番組/情報番組	28	2.2
7 新聞の家庭欄	247	19.1
8 料理漫画	20	1.5
9 料理教室/セミナー	33	2.6
10 外食のメニュー	176	13.6
11 祖父母/親/家族から教えてもらう	332	25.7
12 友人から教えてもらう	356	27.5
13 料理店の調理人/シェフから教えてもらう	32	2.5
14 野菜を買っている店/直売所/生産者の人から教えてもらう	128	9.9
15 野菜を買っている売り場のPOP	153	11.8
16 スーパー/生協等で配布しているレシピカード/情報誌	294	22.7
17 野菜の包装の説明書き/添付されている説明書き	195	15.1
18 インターネット 生活情報/料理関連のサイト	558	43.1
19 インターネット 企業(食品製造/食品流通)のサイト	66	5.1
20 インターネット 産地(生産者個人/JA行政)のサイト	31	2.4
21 インターネット ブログ/口コミサイト	178	13.8
22 その他 具体的に:	9	0.7
23 参考にしていないものはない	93	7.2

Q14 あなたは以下にあげる商品・サービスをどの程度利用していますか。(回答は商品ごとに1つずつ)

(上段:度数、下段:%)

	外食	中食(惣菜コー ナー・弁当店の 調理品)	調理済加工品 (レトルト品・冷 凍パック品など)
n(TOTAL)	1294	1294	1294
	100.0	100.0	100.0
1 ほぼ毎日1回は利用する	41	31	27
	3.2	2.4	2.1
2 2日に1回は利用する	21	40	44
	1.6	3.1	3.4
3 3日に1回は利用する	49	77	64
	3.8	6.0	4.9
4 4~5日に1回は利用する	52	83	83
	4.0	6.4	6.4
5 週に1回は利用する	223	219	202
	17.2	16.9	15.6
6 月に2~3回は利用する	522	426	421
	40.3	32.9	32.5
7 ほとんど利用しない	363	409	434
	28.1	31.6	33.5
8 その他	23	9	19
	1.8	0.7	1.5

Q15 あなたは、以下にあげる商品・サービスに対してどのようなイメージをお持ちですか。(回答は商品ごとにいくつでも)

(上段:度数、下段:%)

	外食	中食(惣菜コー ナー・弁当店の 調理品)	調理済加工品 (レトルト品・冷 凍パック品など)
n(TOTAL)	1294	1294	1294
	100.0	100.0	100.0
1 セントラルキッチン(当該レストラン以外で、 チェーン店等複数のレストランの食品を集中調 理する施設)で作られている食品は不安だ	355	256	227
	27.4	19.8	17.5
2 セントラルキッチン(当該レストラン以外で、 チェーン店等複数のレストランの食品を集中調 理する施設)で作られている食品は安心だ	82	72	65
	6.3	5.6	5.0
3 原材料の産地表示がないメニュー商品は原材料 が国産か輸入品かが気になる(不安だ)	531	584	678
	41.0	45.1	52.4
4 原材料の産地表示がないメニュー商品でも特に 気にならない	98	78	50
	7.6	6.0	3.9
5 消費期限・賞味期限の長めのもの合成保存料 が入っているのでは不安だ	224	419	437
	17.3	32.4	33.8
6 商品等のカロリー表示は正しい	154	117	134
	11.9	9.0	10.4
7 商品等のカロリー表示は大体間違っている	87	101	67
	6.7	7.8	5.2
8 色鮮やかな食品は、合成着色料が入っているの では不安だ	404	510	495
	31.2	39.4	38.3
9 色鮮やかな食品は、おいしそうに見える	95	86	58
	7.3	6.6	4.5
10 「近隣の個人・家族経営で調理者・厨房が見え るような料理店」は安心だ	398	224	107
	30.8	17.3	8.3
11 「近隣の個人・家族経営で調理者・厨房が見え るような料理店」は不安だ	38	43	32
	2.9	3.3	2.5
12 その他	14	14	12
	1.1	1.1	0.9
13 特になし	329	304	300
	25.4	23.5	23.2

Q16 あなたは、「日常的な野菜そのものの摂取量」についてどのように感じていますか。(回答は1つ)

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
1 十分摂れている	74	5.7
2 摂れている	139	10.7
3 まあ摂れている	464	35.9
4 どちらともいえない	236	18.2
5 あまり摂れていない	304	23.5
6 摂れていない	67	5.2
7 まったく摂れていない	10	0.8

Q17 あなたは、現在、野菜そのものの不足についてどのように対処されていますか。あてはまるものをすべてお答えください。(回答はいくつでも)※十分摂れていると感じておられる方も、現在プラスして摂られているものがありましたらお答えください。

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
1 家庭で、野菜料理や使用する野菜の量を増やす	826	63.8
2 冷凍食品・加工食品の野菜が多いものを食べる	50	3.9
3 中食（お弁当）や外食時には、野菜サラダ等の1品を加える	183	14.1
4 野菜ジュースを飲む	533	41.2
5 香汁を飲む	100	7.7
6 サプリメントを摂る	279	21.6
7 果物を多く食べる	284	21.9
8 果物ジュースを飲む	118	9.1
9 その他 具体的に：	8	0.6
10 特に何もしていない	113	8.7

Q18 あなたはなぜ自分が「野菜不足」になっていると思いますか。(回答はいくつでも) 選択肢1は排他

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
1 野菜不足になっているとは思わない	480	37.1
2 野菜の価格が高くて買づらいから	253	19.6
3 野菜が嫌いだから	70	5.4
4 栄養成分の観点では果物で十分代替できていると思うから	21	1.6
5 仕事・他の家事で調理の時間がないから	228	17.6
6 野菜の調理方法がよくわからないから	111	8.6
7 野菜の調理が面倒だから	217	16.8
8 食事が不規則だから	157	12.1
9 その他の方法で野菜の栄養分を補えているから	31	2.4
10 アレルギー等があるから	3	0.2
11 外食・中食が中心だから	56	4.3
12 その他 具体的に：	71	5.5

Q19 あなたは、野菜そのものの不足について、今後はどのように対処しようと思っていますか。あてはまるものをすべてお答えください。(回答はいくつでも) 対象 Q18≠1

	度数	%
TOTAL	814	100.0
1 家庭で、野菜料理や使用する野菜の量を増やす	578	71.0
2 冷凍食品・加工食品の野菜が多いものを食べる	53	6.5
3 中食（お弁当）や外食時には、野菜サラダ等の1品を加える	153	18.8
4 野菜ジュースを飲む	350	43.0
5 香汁を飲む	83	10.2
6 サプリメントを摂る	186	22.9
7 果物を多く食べる	146	17.9
8 果物ジュースを飲む	72	8.8
9 その他 具体的に：	8	1.0
10 特に対処しない（現状のままで良い）	49	6.0

Q20 あなたは、以下の商品についてどのようなイメージをお持ちですか。(回答は種類ごとにくつでも)

(上段:度数、下段:%)

	野菜ジュース	青汁	サプリメント	果物
n(TOTAL)	1294	1294	1294	1294
	100.0	100.0	100.0	100.0
1 野菜そのものを摂るより(値段的に)割高である	257.0	275.0	315.0	291.0
	19.9	21.3	24.3	22.5
2 野菜そのものを摂るより(値段的に)割安である	272.0	74.0	98.0	44.0
	21.0	5.7	7.6	3.4
3 野菜の代替に十分なりうる	206.0	180.0	93.0	103.0
	15.9	13.9	7.2	8.0
4 本当に不足分を補えているのか不安である(有効成分等が)	316.0	157.0	326.0	104.0
	24.4	12.1	25.2	8.0
5 原料の産地が不安である	225.0	137.0	117.0	118.0
	17.4	10.6	9.0	9.1
6 添加物等が不安である	250.0	96.0	166.0	45.0
	19.3	7.4	12.8	3.5
7 おいしい	367.0	37.0	20.0	701.0
	28.4	2.9	1.5	54.2
8 まずい	133.0	631.0	50.0	13.0
	10.3	48.8	3.9	1.0
9 保存が利く	327.0	205.0	421.0	34.0
	25.3	15.8	32.5	2.6
10 携帯・携行に便利である	170.0	79.0	499.0	12.0
	13.1	6.1	38.6	0.9
11 時間を選ばず摂れる	398.0	177.0	449.0	80.0
	30.8	13.7	34.7	6.2
12 アレルギーの心配がない	33.0	32.0	57.0	60.0
	2.6	2.5	4.4	4.6
13 不足している成分のみを補いやすい	93.0	84.0	413.0	23.0
	7.2	6.5	31.9	1.8
14 糖分が気になる	276.0	4.0	8.0	508.0
	21.3	0.3	0.6	39.3
15 簡単に入手できる(宅配・通販など)	248.0	217.0	362.0	97.0
	19.2	16.8	28.0	7.5
16 その他	12.0	12.0	27.0	12.0
	0.9	0.9	2.1	0.9
17 特にない	97.0	203.0	183.0	120.0
	7.5	15.7	14.1	9.3

[属性] *エリア

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
北海道	71	5.5
東北	87	6.7
北関東	66	5.1
京浜	364	28.1
甲信越	82	6.3
東海	160	12.4
京阪神	205	15.8
中国・四国	126	9.7
九州	133	10.3

[属性] * 年代

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
20代以下	130	10.0
30代	235	18.2
40代	369	28.5
50代	302	23.3
60代	161	12.4
70代以上	97	7.5
平均值	47.4	歳
中央値	46.0	歳

[属性] * 既婚女性/単身男女

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
既婚女性	940	72.6
単身男女	354	27.4

[属性] 性別

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
男	163	12.6
女	1131	87.4

[属性] 未既婚

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
既婚	969	74.9
未婚	210	16.2
離別	70	5.4
死別	45	3.5

[属性] 家族人数

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
1人	354	27.4
2	245	18.9
3	247	19.1
4	260	20.1
5	93	7.2
6	56	4.3
7	22	1.7
8	9	0.7
9	3	0.2
10	3	0.2
11	1	0.1
14	1	0.1
平均值	2.9	人
中央値	3	人

[属性] 同居家族人数(子ども)

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
0人	625	48.3
1人	287	22.2
2人	290	22.4
3人	84	6.5
4人	7	0.5
5人以上	1	0.1

[属性] 税込年収(世帯)

	度数	%
TOTAL	1294	100.0
100万円未満	41	3.2
200万円未満	65	5.0
300万円未満	152	11.7
400万円未満	121	9.4
500万円未満	200	15.5
600万円未満	154	11.9
700万円未満	135	10.4
800万円未満	120	9.3
900万円未満	71	5.5
1000万円未満	79	6.1
1200万円未満	70	5.4
1500万円未満	46	3.6
2000万円未満	19	1.5
2000万円以上	21	1.6
平均值	616	万円

野菜の消費行動に関する調査結果

発行 2008年6月

編集製作 社団法人 J A総合研究所

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二丁目4番3号 光文恒産ビル7階

Copyright 2008 JA General Research Institute. All Rights Reserved

社団法人 JA総合研究所

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-3 光文恒産ビル7階

Tel 03-5214-0811 Fax 03-3222-0002

URL <http://www.ja-so-ken.or.jp>